

# 令和元年度 地域連携事業報告書

地域教育実践研究センター



学校法人福原学園  
九州女子大学・九州女子短期大学

# 目 次

## 第1章 大学における地域連携について

I. 大学が地域連携する意味	2
II. 組織と業務内容	3
1. 組織	
2. 業務内容	
3. 外部評価	
III. 令和元年度の地域連携事業実績一覧	4

## 第2章 令和元年度の地域連携事業

I. 芦屋町との包括的連携事業	7
1. 九女ウインナー試作開発事業	
2. スーパーキャラバン隊による模擬保育	
3. 地域交流サロンにおける公開講座	
4. 芦屋町祖父母学級における公開講座	
II. 水巻町との包括的連携事業	14
1. 災害食レシピ開発事業	
2. 地域資源を活用したレシピ開発事業	
III. 北九州市との連携事業	18
1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座	
IV. インターンシップ推進事業	22
1. インターンシップの種類	
2. インターンシップ参加スケジュール	
3. 各インターンシップの実績	
V. 学生ボランティア事業	26
1. グリーンティーチャー	
2. 病院・施設ボランティア	
3. 図書館ボランティア	
4. 幼稚園・保育所・施設ボランティア	
5. キャラバン隊	
VI. その他の地域連携諸事業	28
1. 北九州・下関まなびとぴあへの参画(COC+事業)	
2. 北九州商工会議所との連携事業	
3. まちなかフォーラムin折尾への参画	
4. 北九州市民カレッジにおける公開講座	
5. 大学オリジナルレトルトカレーの開発と販売	
6. 北九州ゆめみらいワークへの出展	
7. 折尾二三会との連携事業「おりちょこランド」の開催	
VII. 他の国内大学との連携事業	32
1. 青森県立保健大学との協定締結	
2. 青森中央学院大学・青森中央短期大学への視察	
VIII. 研究活動	33
1. 学会報告：地域活性学会「第11回研究大会」	
IX. SDGs推進事業	34
1. SDGsとは	
2. 本学の取り組み	
3. 北九州SDGs探求学習プログラムへの参画	

## 第3章 学外実習・介護等体験および教員免許状更新講習等

I. 令和元年度学外実習・介護等体験の実績	38
II. 教員免許状更新講習の受講者推移(平成21年度～令和元年度)	39
III. 令和2年度教員免許状更新講習の開設予定講座	

## 参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員	40
II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績	40
III. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告	41
IV. 協定先一覧	42
V. 地域教育事業一覧(平成25年度～平成30年度)	42
VI. 講師派遣実績一覧	43
VII. 行政の審議会等委員委嘱実績一覧	43
VIII. 地域活性学会「第11回研究大会」発表要旨	44

# 第1章 大学における地域連携について

## I. 大学が地域連携する意味

本学は、「地域に根差した実践教育を展開する大学」として、これまで取り組んできた教育・研究を地域社会の発展に資するため、平成27年6月1日に地域教育実践研究センターを設置した。

地域教育実践研究センターでは、学部・学科、および教員個々が実施してきた地域との関わりについての実態調査や地域が抱える課題や要望等を把握のうえ、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域社会との共生」の3本柱を軸として、地域連携事業の在り方を検討し、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組む。

### 学生の質保証の強化

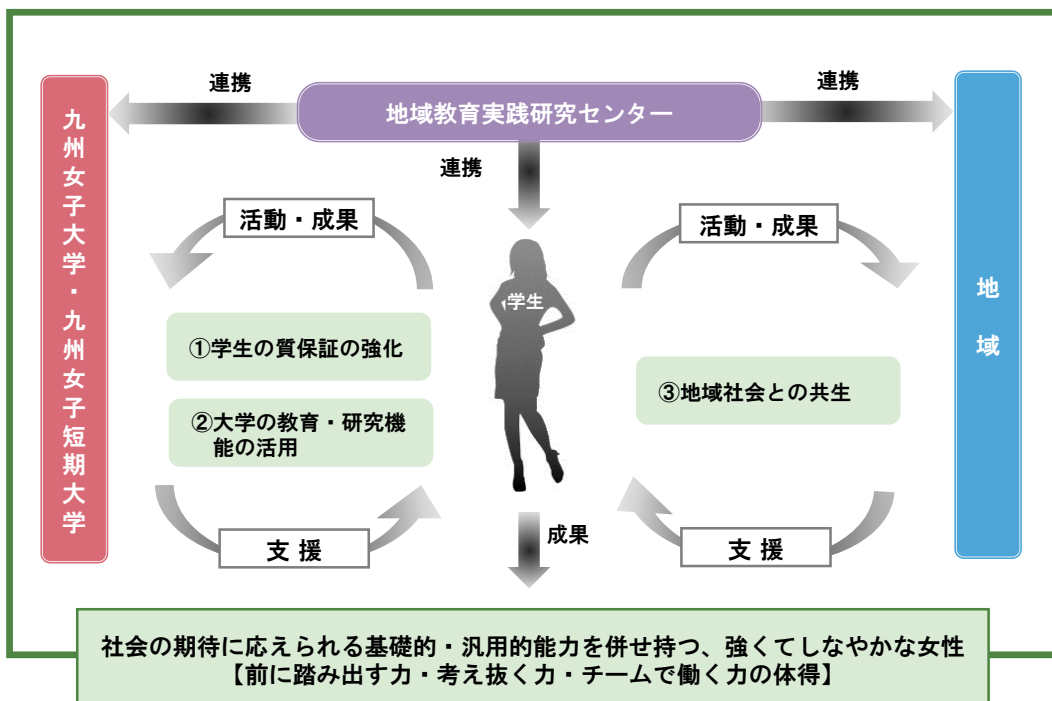
- ・地域課題(ニーズ)と大学資源(シーズ)を把握し、地域の課題を解決するため、学生ボランティアの育成を実践するとともに、学生の実学的教育を実践する。また、学生自身の研究テーマを設定して臨地研究を行うことにより、学生の研究論文に繋げていく。

### 大学の教育・研究機能の活用

- ・地域課題の現状調査を行い、データを分析し、これに対応する教育プログラムを作成する。また、教員による地域への出前型講座等を学生ボランティアと実践し、事業評価を行う。将来的には、「地(知)の拠点」として地域(自治体・企業等)と地域課題を解決する補助事業や共同研究の実施も視野に入れる。

### 地域社会との共生

- ・本学と自治体が組織的・実質的に協力し、地域課題と大学資源のマッチングにより、地域と大学が必要と考える取り組みを実践することで、地域との共生を実現させる。



## II. 組織と業務内容

### 1. 組織

地域教育実践研究センターの適正な管理運営を図るため、「地域教育実践研究センター運営委員会」（以下、「運営委員会」）を設置している。運営委員会は、センター所長、センター副所長、教務部長、学生部長、事務局長、大学・短大の各学部等から学長が推薦する教育職員、その他学長が必要と認めた職員で組織している。組織的に事業に取り組むため、事業案件を運営委員会で審議・決定し、本学の評議会に審議事項を上申している。また、事務を所管するのは、センター所長、センター副所長、事務職員が行う。

さらに、地域教育実践研究センターが各学科・専攻と十分に連携し、連携事業の企画内容をより詳細に検討するため、必要に応じて運営委員会の下に「地域活動推進ワーキンググループ」（以下、「地域活動推進WG」）を設置することとしている。

### 2. 業務内容

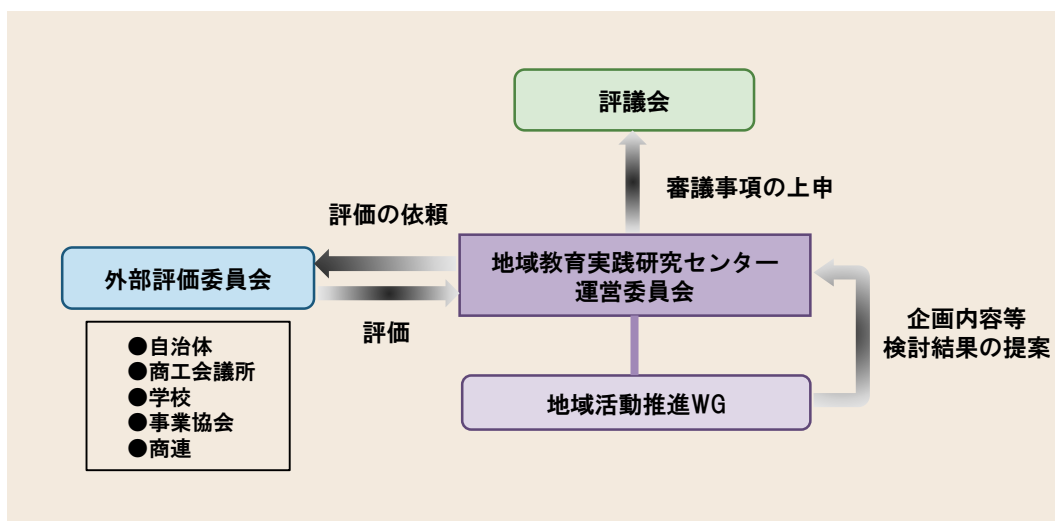
地域教育実践研究センターは、以下の業務を実践・研究するため、学科、個人単位で実施していた地域連携事業の一元化を図るとともに、外部からの依頼に関する窓口としての機能も有する。また、地域連携事業については、運営委員会の検討を踏まえ、各学部等から選出された運営委員により、学科会議等において検討内容の共有に努めることとしている。

#### 地域教育実践研究センターの業務内容

- ①地域教育実践研究活動に関する学内情報の一元管理に関すること
- ②地域教育実践研究活動の学内外への広報ならびに情報の提供に関すること
- ③地域教育実践研究活動に関する対外的な窓口機能に関すること
- ④地域教育実践研究活動の教育実践プログラムおよび研究プロジェクトに関すること
- ⑤地域教育実践研究活動に関する連絡調整に関すること
- ⑥学校インターンシップおよび学校ボランティアに関すること
- ⑦学外実習および介護等体験に関すること
- ⑧教員免許状更新講習に関すること
- ⑨その他地域教育実践研究活動に関すること

### 3. 外部評価

地域教育実践研究センターの取り組みについて、学外有識者による評価を行うことで自己点検・評価活動に反映させ、客観性・公平性を担保するため、外部評価機関として「地域教育実践研究センター外部評価委員会」（以下、「外部評価委員会」）を設置している（P41参照）。



# 第1章 大学における地域連携について

## Ⅲ. 令和元年度の地域連携事業実績一覧

事業	概要
I 芦屋町との包括的連携事業	<p>実践教育の場で社会の期待に応えられる学生の育成、および芦屋町の地域課題解決のため、包括的地域連携協定を締結した(H28.3.29)。 本協定に基づき、連携会議を通じて以下の事業を実施した。</p> <p><b>1. 九女ウイナー試作開発事業【新規】</b> 芦屋町の新たな特産品を開発し商品化するため、本学、芦屋町商工会、株式会社マル五、および中西商店と連携して芦屋の鱈を原料としたウイナーの試作を開発した。</p> <p><b>2. スーパーキャラバン隊による模擬保育</b> 九州女子短期大学子ども健康学科の学生がスーパーキャラバン隊の活動として、芦屋町の保育所・幼稚園(計4ヶ所)で模擬保育を実施した。 ①若葉保育所(R1.11.14) ●派遣学生数：5人 ②芦屋保育園(R1.12.5) ●派遣学生数：5人 ③緑ヶ丘保育所(R1.12.12) ●派遣学生数：5人 ④愛生幼稚園(R1.12.19) ●派遣学生数：4人</p> <p><b>3. 地域交流サロンにおける公開講座</b> 芦屋町の地域交流の促進を図り、高齢者に学び直しの機会を提供するため、昨年度に引き続き、芦屋町の地域交流サロンにおいて、本学教員(書道担当)による公開講座(硬筆教室)を実施した(R2.2.2)。 ■担当教員：大迫正一 ●受講者数：15人</p> <p><b>4. 芦屋町祖父母学級における公開講座</b> 芦屋町の高齢者が充実したセカンドライフを歩むきっかけづくり等のため、昨年度に引き続き、各小学校区の祖父母学級生を対象に本学教員(書道担当)による公開講座を実施した。 ■担当教員：古木誠彦 ①山鹿公民館(R2.2.18) ●受講者数：6人 ②芦屋町中央公民館(R2.2.19) ●受講者数：10人 ③芦屋東公民館(R2.2.25) ●受講者数：15人</p>
II 水巻町との包括的連携事業	<p>実践教育の場で社会の期待に応えられる学生の育成、および水巻町の地域課題解決・町民の防災意識の向上のため、包括的地域連携協定を締結した(H31.4.17)。 本協定に基づき、連携会議を通じて以下の事業を実施した。</p> <p><b>1. 災害食レシピ開発事業</b> 平成29年度および平成30年度で開発した災害食レシピを広く普及するため、町のイベント「防災フェアinみずまき」において栄養学科の学生が来場者へ災害食の試食を提供した。また、町の講座倶楽部事業において、町民を対象に栄養学科の学生が講師となり、鍋ひとつで調理可能な「バッククッキング講座」を開講した。さらに、これらの実績を福岡県防災賞に応募した結果、「選考委員会奨励賞」に選出された。 ①防災フェアinみずまき(R1.10.12) ●参加者数：250人 ②バッククッキング講座(R1.11.9) ●受講者数：20人</p> <p><b>2. 地域資源を活用したレシピ開発事業</b> 昨年度、栄養学科が開発した学校給食向けでかんにんにくレシピの実用化に向け、町の学校給食に携わる調理員等を対象に「学校給食でかんにんにく調理講習会」を開催した。この調理講習会をきっかけに、令和元年10月から一部のレシピが水巻町の小中学校で給食として提供されることとなり、水巻南中学校にて「学校給食試食会」が開催され、本学の学生・教職員が参加した。 ①学校給食でかんにんにく調理講習会(R1.7.26) ●受講者数：38人 ②学校給食試食会(R1.10.21) ●派遣学生数：3人</p>
III 北九州市との連携事業	<p><b>1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座</b> 本学と北九州市(子ども家庭局)で放課後児童クラブの振興を図るため、昨年度に引き続き、本学教員によるクラブ指導員を対象とした公開講座(テーマ:応急手当の基本と食物アレルギー対応)を実施した(R1.6.6)。 ■担当教員：春高裕美 ●受講者数：88人</p>
IV インターンシップ推進事業	<p><b>1. 文系インターンシップ(COC+事業)</b> 北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉強意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。 ●派遣先：【夏季】(株)グローバルマーケット/(株)ルネ 【春季】(株)ナフコ/小林青果(株)/(株)ハンズマン ●派遣学生数：【夏季】延べ2人 【春季】延べ4人</p>

	事業	概要
IV	インターンシップ推進事業	<p><b>2. 課題解決型インターンシップ (COC+事業)</b>  北九州商工会議所が実施主体となり、北九州市内の学生に社会的基礎力を修得させるため、地域産業や企業等の課題を題材として実施する課題解決型の事業である。  ●派遣先：【夏季】北九州商工会議所  ●派遣学生数：【夏季】4人</p> <p><b>3. (一社)九州インターンシップ推進協議会 短期仕事理解型インターンシップ</b>  九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。  ●派遣先：【夏季】日本生命保険(相) / ㈱武久 / ㈱ミライロ / (特非)箱崎自由学舎  【春季】㈱書肆侃侃房  ●派遣学生数：【夏季】4人 【春季】1人</p> <p><b>4. 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ</b>  山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップを通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。  ●派遣先：【夏季】防府市役所  ●派遣学生数：【夏季】1人</p>
V	学生ボランティア事業	<p><b>【九州女子大学】</b></p> <p><b>1. グリーンティーチャー</b>  取得免許毎の学生の実践力向上を図る事業について、「グリーンティーチャー」と命名し、グリーンとは、「緑の、未熟な、未経験の、元気のいい、若々しい、新鮮な」という意味を含んでいる。教育現場等において、園児や児童の指導補助・学習支援等を通し、学生の実践力を身につける本学独自の取り組み。  ●派遣学生数：幼稚園・保育所68人/小学校126人/芦屋校区土曜学び合いルーム51人/特別支援学校20人</p> <p><b>2. 病院・施設ボランティア</b>  病院(病児保育)・施設(療育施設)において、多様な保育環境に対応できる保育者を育成する取り組み。  ●派遣学生数：7人</p> <p><b>3. 図書館ボランティア</b>  図書館において、図書館司書資格に必要な知識と技術を実務経験を通して身につけ、現場で図書館司書の役割等を理解する取り組み。  ●派遣学生数：公共図書館35人</p> <p><b>【九州女子短期大学】</b></p> <p><b>4. 幼稚園・保育所・施設ボランティア</b>  幼稚園・保育所・施設の行事等の多様な活動において、役割や仕事を実践・思考することで、職業人として必要な力を育成する取り組み。  ●派遣学生数：106人</p> <p><b>5. キャラバン隊</b>  九州女子短期大学の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等に出向き、模擬保育や模擬授業を展開する取り組み。  ●派遣学生数：延べ59人</p>
VI	その他の地域連携諸事業	<p><b>1. 北九州・下関まなびとびあへの参画(COC+事業)</b>  本事業は、「北九州・下関まなびとびあ」を中心に地方創生モデルを構築する文部科学省の補助事業(COC+)である。学生の北九州・下関の定着促進を図る施策について、具体的に検討することを目的に4分野のワーキンググループが設置されている。本学は、昨年度に引き続き、低学年向けプログラムWG、およびSDGs人材育成WGに参加し、各ワーキンググループにおいて意見交換を重ねた。また、今年度はCOC+事業の最終年度となるため、事業終了後の方向性を関係組織と確認した。</p> <p><b>2. 北九州商工会議所との連携事業</b>  北九州商工会議所会報誌「北商NEWS」の大学生プロデュースによる情報発信コーナー「キャンパス通信」に係る企画、取材、執筆等に取り組み、学生目線で本学の記事を掲載した。  ●6月号/人間基礎学専攻 ●2月号/人間生活学科</p> <p><b>3. まちなかフォーラムin折尾への参画【新規】</b>  まちなかフォーラムin折尾は、「明るい高齢社会を目指して」をテーマに認知症の正しい理解と啓発促進、および多世代交流を目的として、NPO法人老いを支える北九州家族の会の主催により開催された。本学の書道部の学生が、書道ミニ色紙を来場者へ提供する等、運営に協力した(R1. 10. 19)。</p>

## 第1章 大学における地域連携について

事業	概要
<b>VI その他の地域連携諸事業</b>	<p><b>4. 北九州市民カレッジにおける公開講座</b>  北九州市民カレッジにおいて、人間発達学科の荻原教授による「光源氏と女をめぐる謎!？」をテーマとした全5回の講座を開講し、29名が受講した。また、産業医科大学と連携して栄養学科の巴教授による「生涯を健康に過ごすには？」をテーマとした全5回のうち2講座「若く老いるための栄養学」および「慢性疾患を予防する食事」を開講し、17名が受講した。  ■担当教員：荻原桂子 ●受講者数：29人  ■担当教員：巴美樹 ●受講者数：17人</p> <p><b>5. 大学オリジナルレトルトカレーの開発と販売【新規】</b>  本学の教育や取り組みを、広く地域へ伝えるため、株式会社はかた本舗と産学連携し、栄養学科の監修のもと、大学のオリジナルカレーのレトルト開発に着手した。商品名は、「九女復刻咖喱」とし、令和2年6月の販売を予定している。</p> <p><b>6. 北九州ゆめみらいワークへの出展</b>  北九州ゆめみらいワークは、地元の魅力を知るキャリア教育のイベントとして北九州市の主催により西日本総合展示場で開催された。今年度は人間発達学専攻から「先生という夢を叶えるチーム九女」、子ども健康学科から「3つの美様miyou-やってみよう-」のテーマにて出展し、2日間で計352名の高校生等で賑わった(R1. 8. 23～24)。</p> <p><b>7. 折尾二三会との連携事業「おりちょこランド」の開催【新規】</b>  人間生活学科のカリキュラムにおいて、折尾二三会(折尾の異業種交流団体)と連携し、地元の子どもたちを対象に折尾地区の企業による職業体験イベントの企画・運営に取り組んだ(R1. 10. 22)。  ●派遣学生数：47人 ●来場者数：約1,500人</p>
<b>VII 他の国内大学との連携事業</b>	<p><b>1. 青森県立保健大学との協定締結【新規】</b>  本学と青森県立保健大学でベトナム国ナムディン看護大学及びベトナム国立栄養研究所との交流活動に係る連携・協力に関する協定を締結した(R1. 7. 31)。  本協定に基づき、ベトナム国との交流活動を連携・協力して推進するとともに、同大学との特定領域における共同研究、および教職員・学生の相互交流を図り、教育・学術研究の質向上、人材育成、および大学間交流等を実施する予定である。</p> <p><b>2. 青森中央学院大学・青森中央短期大学への視察【新規】</b>  青森中央学院大学・青森中央短期大学と共通する教育・研究分野において、学生・教員間の交流、また、職員間交流における新たなSDの推進等の連携を模索するため、両大学の理事長、学長をはじめとする関係幹部で双方の特色ある取り組みについて情報交換をした(R1. 7. 31)。</p>
<b>VIII 研究活動</b>	<p><b>1. 学会報告：地域活性学会「第11回研究大会」</b>  本学の地域教育実践研究活動をさらに発展させるため、他大学等の地域連携事業に関する研究や事例の情報等を得ることを目的に、平成28年度から「地域活性学会」の団体会員に大学として加入している。本学会の第11回研究大会が開催され、平成27年度から平成30年度の自治体(北九州・芦屋町・水巻町)との組織連携による事業実績、およびSDGsによる高大接続事業の事例を発表した(R1. 9. 14～15)。</p>
<b>IX SDGs推進事業</b>	<p><b>1. 北九州SDGs探求学習プログラムへの参画【新規】</b>  本学との高大接続連携校である八幡南高等学校において、地域課題の把握等実践的に向き合う「北九州SDGs探求学習プログラム」を実施した。本学習を進める中で、人間生活学科の学生がファシリテーターとして高校生へ助言等のサポートを行った。  ●派遣学生数：14人</p>

## 第2章 令和元年度の地域連携事業

### I. 芦屋町との包括的連携事業

平成28年3月29日、実践教育の場で社会の期待に応えられる学生を育成するため、芦屋町と包括的地域連携に関する協定を締結した。芦屋町と協定を締結することで、双方の持つ資源を結集し、行政や地域が抱える課題の解決、および社会性や実践力を身につけた学生の育成等、双方のメリットを効果的かつ最大限に活かすとともに、連携事業を推進する。

令和元年度は、九女ウイナー試作開発事業、スーパーキャラバン隊による模擬保育、地域交流サロンにおける公開講座、芦屋町祖父母学級における公開講座の4事業を中心に実施した。

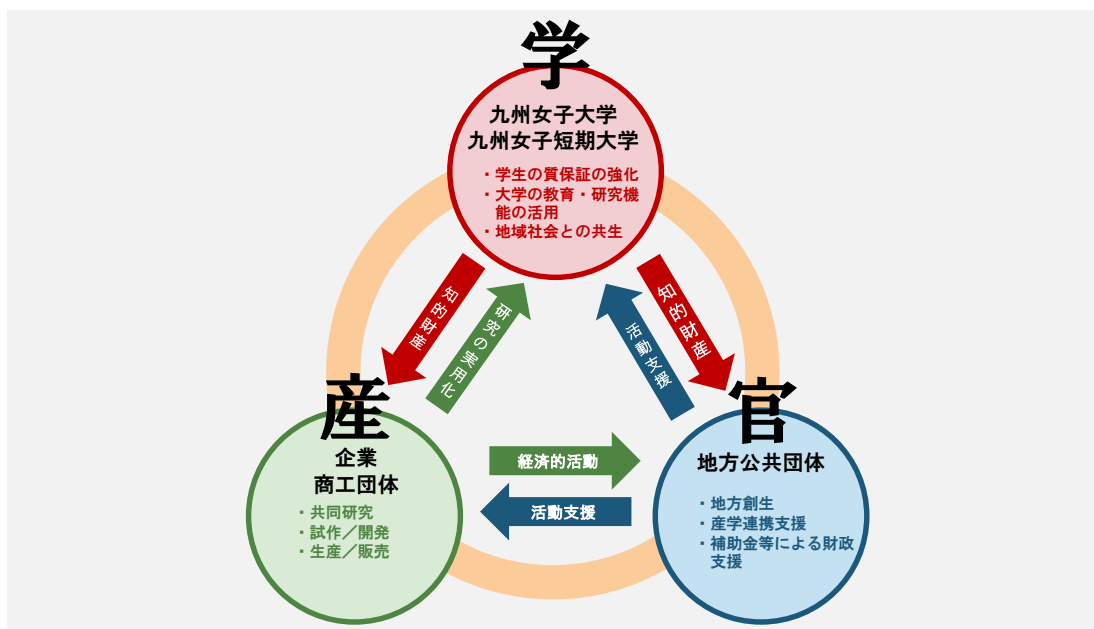
#### 1. 九女ウイナー試作開発事業

##### (1) 概要・関連SDGs

平成28年度から平成30年度までの芦屋町とのさわらサミット推進プロジェクトにおいて、栄養学科が町の特産品である鯖を原料とし、風味豊かな栄養満点の鯖そぼろを開発した。この鯖そぼろを応用し、平成28年度のさわらサミットでは、さわら巻きを開発のうえ出店した。また、平成29年度および平成30年度のさわらサミットでは、鯖ウイナーを開発のうえ、ホットドッグとして出店し、多くの方へ提供した。この鯖ウイナーを芦屋町の新たな特産品として商品化するため、本学、芦屋町、芦屋町商工会、株式会社マル五、および中西商店と産官学連携を図り、栄養学科監修のもと試作品を開発した。



##### (2) 産官学連携概念図



##### (3) 産官学連携までの流れ

###### ①本学と芦屋町の包括的地域連携事業

・さわらサミット推進プロジェクト、芦屋町課題発見プログラム、キャラバン隊による模擬保育、および公開講座等を芦屋町役場と連携して実施した。



###### ②芦屋町と芦屋町商工会の連携

・本学がさわらサミット推進プロジェクトで開発した鯖ウイナーを、芦屋町の特産品として商品化するため、芦屋町と芦屋町商工会が連携し、特産品等開発プロジェクト事業として、実現可能な企業を募った。その結果、開発は株式会社マル五、販売は中西商店の協力を得られることとなった。



###### ③本学と芦屋町商工会および企業との連携

・芦屋町商工会を通じて、九州女子大学(レシピ提供)、株式会社マル五(商品開発)、中西商店(販売)で鯖ウイナーの商品化に向けた試作開発を具体化した。

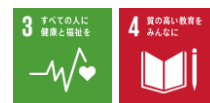




### 2. スーパーキャラバン隊による模擬保育

#### (1) 概要・関連SDGs

キャラバン隊は、九州女子短期大学子ども健康学科の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等において、模擬保育・模擬授業を展開する学生主体の活動である。この活動を通じて、学生の「創造性」「意欲」「研究心」「人間関係力」「問題解決能力」等、総合的な「人間力」の育成を目的としている。キャラバン隊には、原則、子ども健康学科の1年生全員が所属し、専門性と人間性を身につけるために必要なことは何かを考察している。また、希望する学生については、「スーパーキャラバン隊」として他の学生の模範となり、中心的に活動に取り組んでいる。昨年度に引き続き、芦屋町の保育所・幼稚園(計4ヶ所)においてスーパーキャラバン隊の活動を実施した。



#### (2) 実施内容

場所	日程	内容	時間
若葉保育所	令和元年11月14日(木)	①ブタのさんぽ(手遊び) ②はらぺこあおむし(大型絵本) ③おちたおちた(ゲーム) ④むすんでひらいて(リトミック) ⑤じゃんけん(ゲーム) ⑥ねずみの嫁入り(パネルシアター) ⑦ドラえもん(手遊び) ⑧夢をかなえてドラえもん(ダンス)	45分
芦屋保育園	令和元年12月 5日(木)		
緑ヶ丘保育所	令和元年12月12日(木)		
愛生幼稚園	令和元年12月19日(木)		

#### 学生のコメント

①学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちも一緒に参加できるような活動を一緒に仲間と考えることで、「動」と「静」の活動を交互に入れることの重要性を知ることができました。</li> <li>しっかり練習をすることで、園児の前で自信を持って活動することができました。</li> <li>お昼寝の前は最初に身体を動かして最後に静かな活動をするとうい等、子どもたちの生活サイクルを含めた組み立てを学びました。</li> <li>子どもたちの行動を予測して環境を整えることが大切だと学びました。</li> <li>笑顔で私たちが楽しみながらすることが重要であると感じました。</li> </ul>
②気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で学んだことやオープンキャンパスでの活動を活かして、楽しんで活動できました。</li> <li>急なプログラムの変更が生じた場面で臨機応変に対応できました。</li> <li>子どもたちの反応を大切に、全体へ呼びかけたり、司会をすることができました。</li> <li>短い練習期間の中で、メンバーと協力し、自分の役をしっかりとることができました。また、目の前にいる子どもたちだけでなく全体の様子を見て、笑顔で活動することができました。</li> </ul>
③今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場に出たときに、活動の流れをあらかじめ考えておき、子どもたちの様子を予想して計画を立てることが大切なので活かしていきたいです。また、活動に自発的に取り組めない子には、笑顔で誘うようにすることが大切だと学びましたので、活かしていきたいです。</li> <li>子どもたちが理解しやすい言葉を使って説明し、保育者になってからも身振り手振りを大きくするよう心掛けていきたいです。</li> <li>子どもたちの反応を見ながら保育を展開できるようにしていきたいです。</li> <li>今回司会をして、保育の進め方を学ぶことができましたので、保育現場で活かしていきたいです。</li> </ul>

### (3) 各園における模擬保育の様子

#### 手遊び・大型絵本

愛生幼稚園



若葉保育所



#### ゲーム・リトミック

緑ヶ丘保育所



芦屋保育園



#### じゃんけん・パネルシアター

愛生幼稚園



芦屋保育園



#### ダンス・交流

愛生幼稚園



若葉保育所



### 3. 地域交流サロンにおける公開講座

#### (1) 概要・関連SDGs

地域交流サロンは、芦屋町の高齢者が身近な場所に集い、体操や趣味、食事、おしゃべり等を通じて、生きがい作りや介護予防のため運営している。そのサロンの高齢者を対象に学び直しの機会を提供するため、昨年度に引き続き、本学教員による公開講座(硬筆教室)を実施した。



#### (2) 実施内容

<b>タイトル</b>	地域交流サロン硬筆教室
<b>担当教員</b>	九州女子大学 共通教育機構 准教授 大迫正一
<b>実施日時</b>	令和2年2月2日(日) 10:00~12:00
<b>実施場所</b>	大君区公民館
<b>受講者数</b>	15人
<b>目的</b>	中国で作られた文学だが、日本に大きな影響を与えた文学に親しみながら、手書き文字を楽しむことで、通常の「硬筆講座」だけでは学べない、「筆読」という新しい営みを体験してもらう。
<b>概要</b>	論語について知り、書いてみる。また、漢字についての豆知識も紹介する。
<b>準備</b>	①テキスト「えんぴつで論語」、②硬筆用鉛筆(4B)、③消しゴム
講座の展開	
主な講座内容	留意点
①漢字の「右」や「左」などの筆順について概説する。  (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 常用漢字の中でも、日常頻繁に使う漢字を使って筆順を概説する。「右」「左」など。</li> <li>• 漢字の成り立ちについて概説する。「人」「大」など。</li> </ul>
②「論語」と孔子について概説する。  (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 孔子の生涯とその業績について簡単に説明する。</li> <li>• 「論語」と日本の関わりの歴史について概説する。</li> <li>• 手書き文字について、昭和以降の状況を概説する。</li> </ul>
③「論語」を実際に音読し、解釈を知り、書いてみる。  (60分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 筆読は、10分程度で行う。(音読、解釈で5分、揮毫5分)</li> <li>• 3日分を目安に筆読する。</li> </ul>

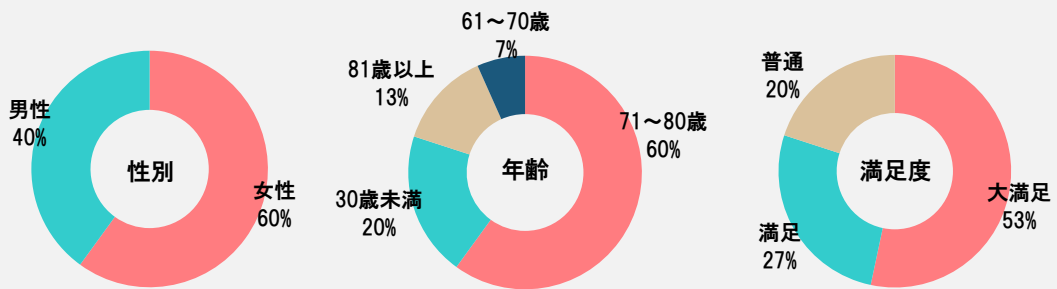


論語の説明



実習(なぞり書き)

■受講者データ(n=15)



受講者の声

- 全然興味のなかった論語が少し面白くなりそうです。
- 楽しく学習でき、わかりやすく説明されました。
- 一字一字のバランスを学ぶことができ、書き方の勉強になりました。
- 字をなぞってみて自分の書く字との違いがあり、とても勉強になりました。
- 大変わかりやすかったです。
- わかりやすい講座でした。久しぶりに学生時代に戻った様でした。
- 久しぶりに楽しいお話を聞くことができました。ありがとうございました。
- 普段使っている字でも、説明されてよく聞くと感じるほどと思える字ばかりで、ためになりました。
- 毎日少しずつ練習したいと思います。

担当教員の感想

今回の講座は、小学3年生と5年生の二人、中学1年生が一人という若い人と、高齢者という構成の受講者ということで、大変苦勞しました。「論語」という内容は、小学6年生で音読が国語の教科書に取り上げられている程度で、少し内容の選択を間違ったと反省しています。中でも、漢字の成り立ちや、筆順の話は皆さんに興味を持ってもらえたようでそちらの内容を膨らませすぎたかもしれません。感想を見ても、漢字に関することが多く、「論語」の感想が少なかったことから申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、最後まで熱心に聞いていただき、本当にありがとうございました。

## 第2章 令和元年度の地域連携事業

### 4. 芦屋町祖父母学級における公開講座

#### (1) 概要・関連SDGs

芦屋町祖父母学級は、芦屋小学校・芦屋東小学校・山鹿小学校の各校区で活動する大人向けの公民館講座の一つであり、豊富な知識と経験を持つ者同士が、楽しく学び、より深い社会性を身につけることを目的としている。その祖父母学級の高齢者を対象に学び直しの機会を提供するため、昨年度に引き続き、3ヶ所の公民館において本学教員による公開講座を実施した。



#### (2) 実施内容

場所	日程	時間	受講者数
山鹿公民館	令和2年2月18日(火)	10:00~12:00	6人
芦屋町中央公民館	令和2年2月19日(水)	10:00~12:00	10人
芦屋東公民館	令和2年2月25日(火)	10:00~12:00	15人

タイトル	漢字のはなし ～「足」に関する漢字を考えよう！～		
担当教員	九州女子大学 人間科学部人間発達学科(人間基礎学専攻) 准教授 古木誠彦		
目的	漢字の成り立ちから漢字の面白さを知る。		
概要	漢字の成り立ちを主に考察するが、併せて、我々の日常的慣習や中国哲学・思想についても考える講座内容である。		
準備	①プロジェクター、②パソコン、③スクリーン、④ホワイトボード		
<b>講座の展開</b>			
	<b>主な講座内容</b>	<b>留意点</b>	
	①「足」に関連する漢字30文字について解説を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全て日常使用している漢字を取り上げ、古い字形では漢字を想像できないため、クイズ形式を取り入れて、より平易な文言を用いて解説を行う。</li> <li>• 漢字の成り立ちを知ることが目的ではあるが、日常的に漢字に興味を持ってもらうことが、最大の目的であることを受講者に認識させながら、講義を行う。</li> <li>• 漢字ができた初義と、現在の我々が使用している意味の違い・変化にも言及し、漢字が時代とともに生きている、という感覚を持ってもらえるよう話を進める。</li> </ul>	
	②30文字それぞれの字形の特徴を明確に示し、漢字構造のポイントや字訓・字音についても言及する。		
	③漢字の成り立ちに関連して、哲学的観念や思想的観念についても簡潔に説明し、漢字の凄さの再発見を促す。		

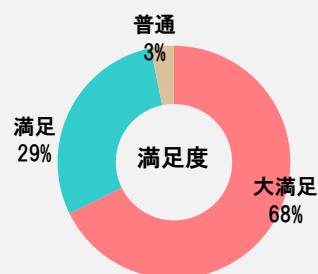
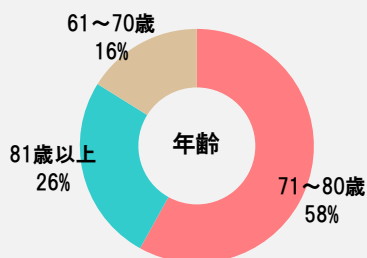
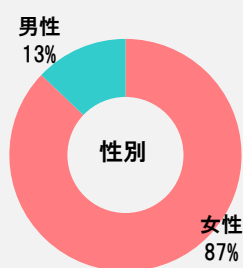


漢字「足」に関する解説



字形の説明

■受講者データ(n=31)



受講者の声

- 初めての受講でしたが、とても分かりやすかったです。次回もお願いします。
- 久しぶりに漢字の基本の勉強をさせていただきました。学ばば学ぶほどとても楽しかったです。
- 字のできていく様子がよく分かりました。
- 漢字に興味があったので楽しかったです。
- 中国の漢字はとても難しいと思いましたが、先生の説明でよかったです。
- 字って楽しいですね。もっと書いていきたいと思いました。
- 固定観念に捉われないようにしたいです。
- 講師の方の説明がとても分かりやすく久しぶりに勉強になりました。

担当教員の感想

前回同様、難易度の高い講座内容をどのように平易な言葉で説明するか、大変考慮しました(平易に捉えすぎると本来の字義が薄れる場合があるため)。受講者の皆さんは、大変熱心であり、質問等もあり充実した講座内容でした。受講生が熱心ゆえ、難解な内容にも言及でき、予想以上に高度な内容になったと感じました。講座終了後も、受講生の方々が色々なことについて話しかけていただいたことも嬉しかったです。また、これを機に漢字について、単なる記号として捉えず、一つの漢字には、その当時のひとつの社会性が垣間見られることを、さらに伝えていきたいと思います。

## 第2章 令和元年度の地域連携事業

### II. 水巻町との包括的連携事業

水巻町は、遠賀川（一級河川）の氾濫等による水害が考えられ、町民の防災意識の向上を課題としている。このことから、本学は、平成29年度から災害時に備えた食料の備蓄を推進するため、ローリングストック法も活用できる備蓄食料で調理可能な災害食レシピ、およびアレルギー対策に主眼を置いた災害食レシピを開発し、町民を対象とした調理講習会を実施した。また、町の特産品である「でかにんにく」のブランディングに寄与するため、学校給食用のレシピを開発した。

これらの事業実績を踏まえ、より多くの研究成果を地域へ還元するため、平成31年4月17日に本学と水巻町で包括的地域連携協定を締結した。

令和元年度は昨年度に引き続き、災害食レシピ開発事業、およびでかにんにくを活用したレシピ開発事業の新たな段階へと取り組んだ。



#### 1. 災害食レシピ開発事業

##### (1) 概要・関連SDGs

平成29年度および平成30年度で開発した災害食レシピを広く普及するため、町のイベント「防災フェアinみずまき」において栄養学科の学生が来場者へ災害食の試食を提供した（令和元年10月12日開催）。また、町の講座倶楽部事業において、町民を対象に栄養学科の学生が講師となり、鍋ひとつで調理可能な「パッククッキング講座」を開講した（令和元年11月9日開催）。



##### (2) 実施内容

###### ① 「防災フェアinみずまき」における災害食試食の提供

本イベントは、町民の防災意識の向上、および家庭内備蓄の推進を目的に災害食の試食、講演会、避難訓練の内容で開催された。本学は、栄養学科が開発した災害食レシピのうち4品（鯖味噌おにぎり・鯖ボール・切干大根のマヨネーズ和え・ケチャップ炒め）を来場者へ試食として提供した。当日は約250名が来場し、学生と町民等が交流できた大変賑わいのあるイベントとなった。また、来場者に行ったアンケート結果からは、美味しいという意見のみならず、「大変参考になったので、家庭でも缶詰やアルファ米を備蓄してみます」といった意見等もあり好評を得ることができた。



災害食試食4品



学生による試食の提供



今後の研究に向けて  
(試食の感想をインタビュー)

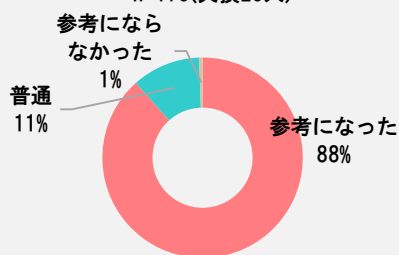


試食する来場者で賑わ会場

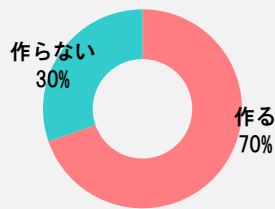
## ■防災フェア来場者アンケート結果 抜粋

回答者数：195人(男性64人、女性131人) 平均年齢：37.1±23.6歳

設問：本日の災害食はいかがでしたか？  
n=175(欠損20人)



設問：今回の災害食を家で作られますか？  
n=175(欠損20人)



## ②パックスッキング講座の開講

本講座は、学生が講師として、20名の町民を対象に災害時でもひとつの鍋で複数の料理を同時に調理することができるパックスッキングをテーマに開講した。パックスッキングとは、130℃耐熱のポリ袋に食材を入れて湯せんで火を通す調理法であり、災害時に有効活用できると現在注目されている調理法である。当日は、学生と受講者が共に5品(ご飯・鶏肉のスパイシー煮・鯖じゃが・小松菜の和え物・プリン)を調理した。受講者に行ったアンケート結果からは、「どのメニューも美味しい」「また開講して欲しい」と好評を得ることができた。また、「災害に備えたい」との意見もあり、防災意識の向上も見られた。



学生によるレシピや調理法の説明



学生と受講者による調理



湯せんで火を通すパックスッキング



完成した料理の試食

## (3) 受賞

水巻町が本学との災害食レシピ開発事業のこれまでの取り組み実績について、福岡県防災賞<sup>\*</sup>へ推薦した。福岡県防災賞表彰選考委員会の厳正な審査の結果、福岡県防災賞に準じた「選考委員会奨励賞」に選出された。このような結果が得られたのは、3年に渡る本学と水巻町との密接な連携のもと、継続的なレシピ開発、町民対象の実践講習会の実施、イベント等における普及活動等が評価へ繋がったからである。今後も継続的に水巻町と連携のうえ、本学が有する研究成果を還元することで、町の課題である防災に関する様々な取り組みを推進する。



<sup>\*</sup>福岡県防災賞とは、福岡県において、自主的な防災活動の一層の充実・発展に資することを目的に平成18年3月に創設され、県内の幅広い取り組みや事例の中で特に優れたものが表彰される賞である。



### (4) 成果発表

令和元年12月21日、水巻町における防災に係るこれらの取り組みを学生が卒業研究として発表した。本研究発表会には、水巻町役場の職員の参加もあり、研究結果を報告することができた。

発表内容は、「災害食レシピ試食アンケート調査および災害食レシピの開発」という題目で、防災フェアに訪れた200名を対象としたアンケート調査の分析結果、また、別グループは「水巻町の備蓄食糧に関するアンケート調査の前後比較」という題目で、平成29年度(1,151世帯)、および平成30年度(1,023世帯)に町民を対象に実施したアンケート調査の分析結果を発表した。水巻町との連携事業を学生の卒業研究へ還元することができ、地域教育実践研究センターの基本方針である「学生の質保証の強化」へ繋げることができた。



## 2. 地域資源を活用したレシピ開発事業

### (1) 概要・関連SDGs

栄養学科が開発した学校給食向けでかんにんにくレシピの実用化に向け、町の学校給食に携わる調理員等を対象に「学校給食でかんにんにく調理講習会」を開催した(令和元年7月26日開催)。この調理講習会をきっかけに、令和元年10月から一部のレシピが水巻町の小中学校で給食として提供されることとなり、水巻南中学校にて「学校給食試食会」が開催され、本学の学生・教職員が参加した(令和元年10月21日開催)。



### (2) 実施内容

#### ① 学校給食でかんにんにく調理講習会の開講

本講習会は、栄養学科が開発したでかんにんにくの調理レシピを学校給食の献立に実用化するため、学生が講師となり、町の小中学校の栄養教諭、および給食調理員等38名を対象に開講した。当日は、開発したレシピ24品の中から、5品(鶏肉のうまうま焼き・チンジャオロース・根菜と豚肉の炒め煮・豚汁・ジャージャー麺)を学生と受講者が共に調理した。レシピを開発する過程で、でかんにんにくを蒸すことにより、特有の苦みを抑えることが判明したことから、今回の講習会では蒸したでかんにんにくを使用した。この結果、給食だけではなく家庭の献立にも取り入れやすいレシピとなり、調理後の試食会では、受講者から美味しいと好評を得ることができ、レシピの実用化に向けて大きく前進した。



特産品「でかんにんにく」



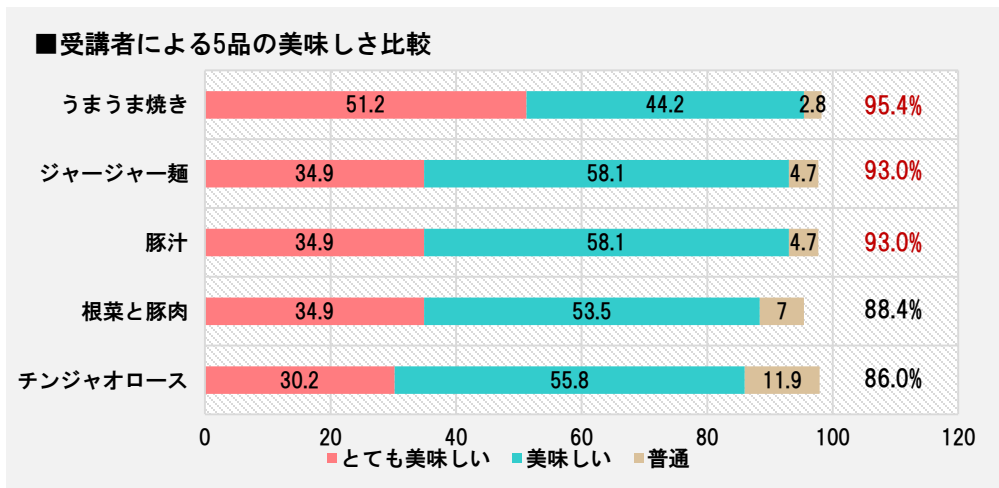
学生と給食調理員による調理



完成した料理



講習会を終えて



## ②学校給食試食会への参加

町の小中学校の給食献立(10月)に栄養学科が開発したでかにんにくのレシピが一部導入された。小学校ではジャージャー麺、中学校では豚汁、および鶏肉のうまうま焼きが給食として提供され、水巻南中学校における給食試食会へ開発に携わった学生を始め、教職員が参加した。学生は、積極的に生徒たちに感想を聞き交流を深め、生徒は「ににおいがせず食べやすい」「甘みがあって美味しい」と喜んでいた。



給食(鶏肉のうまうま焼き)



でかにんにくレシピの説明



生徒と交流する学生



給食の試食

## (3) 成果発表

令和元年12月21日、でかにんにくに係るこれらの取り組みを学生が卒業研究として発表した。本研究発表会には、水巻町役場の職員の参加もあり、研究結果を報告することができた。

発表内容は、「水巻町特産物のでかにんにくを用いたレシピ開発と学校給食への導入」という題目で、小中学校の児童・生徒の嗜好等を考慮したレシピ開発の過程、および調理講習会の受講者を対象としたアンケート調査の分析結果を発表した。水巻町との連携事業を学生の卒業研究へ還元することができ、地域教育実践研究センターの基本方針である「学生の質保証の強化」へ繋げることができた。



## 第2章 令和元年度の地域連携事業

### Ⅲ. 北九州市との連携事業

#### 1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座

##### (1) 概要・関連SDGs

平成25年9月1日に北九州市と本学で「北九州市放課後児童クラブの振興に関する連携」について協定を締結した。平成27年度連携事業開始にあたっては、放課後児童クラブの要望を把握するため、児童クラブの指導員を対象にアンケート調査を行った。このアンケート調査の結果から、4領域(①生活、②遊び、③活動・行事、④衛生等)について公開講座の要望があった。

平成27年度から平成30年度は、これらの要望に基づいて以下のとおり公開講座を実施した。令和元年度については、応急処置に関する大規模型公開講座を1講座実施した。



##### (2) 大規模型公開講座の実績

講座名	受講者数	担当教員	実施年度
応急手当の基本と食物アレルギー対応	市内指導員88人	人間発達学科 春高 裕美	R1年度
明日からの支援に活かそう健康観察と応急処置	市内指導員92人	人間発達学科 春高 裕美	H30年度
明日からの支援に活かそう健康観察と応急処置	市内指導員94人	人間発達学科 春高 裕美	H29年度
子どもの発達と児童期の関わり方	市内指導員496人	人間発達学科 蒲原 路明	H29年度

##### (3) 通常型公開講座の実績

###### 【領域 ①：生活】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>高学年の発達に応じた独自の生活指導の研修があれば良い。</li> <li>児童と指導員との対応の仕方。例えば、問題児との関わり方等、具体策について勉強してみたいと思う。</li> </ul>	<b>子どもの発達特性を活かした生活集団づくり</b>  萩原学童保育クラブ 受講者数:指導員12人	人間発達学科 神代 明 藤川 一俊	H27年度
発達障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害やボーダーラインの子どもたちに関する研修があれば参加したい。</li> <li>発達障害を持った児童に対する指導方法、落ちつきのない児童(グレーゾーン)の対応、声かけ等</li> </ul>	<b>発達障害の子どもの特性と基本的理解</b>  けやき児童クラブ 受講者数:指導員13人	人間発達学科 石黒 栄亀	H28年度
保護者クレーム対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童同士のトラブルにおける保護者からのクレーム対応</li> </ul>			

###### 【領域 ②：遊び】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
遊び(レク)	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの興味をひく遊びや低学年用、高学年用等、年齢に合った遊び</li> <li>遊びのスペースが狭いため、限られた環境に適した遊びの指導、小学校高学年児童向けのもの</li> </ul>	<b>高学年における集団遊び</b>  医生丘児童クラブ 受講者数:指導員7人/児童7人	人間発達学科 藤川 一俊	H27年度

【領域③：活動・行事】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
ダンス・手遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み等にいくつかのクラスに分けて、ダンス、制作、その他希望する活動が一齐にできればとてもありがたい。</li> <li>ダンス、演奏等の活動はできていないと感じているため、楽しんで体を動かす活動を教えてあげて欲しい。</li> </ul>	<b>体を動かすことを楽しもう！ ～リズムにのって楽しく～</b> 折尾児童館内放課後児童クラブ 受講者数:指導員11人/児童22人	人間発達学科 青山 優子	H27年度
		<b>リズム表現を通した子どもの心と体への働きかけ</b> 曾根東校区放課後児童クラブ 受講者数:指導員15人	子ども健康学科 津山 美紀	H28年度
工作・美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年が満足する夏休みの工作で毎年悩んでいる。</li> <li>科学的な実験や、動くおもちゃの制作等、子どもの興味、好奇心をそそるような体験行事があると良い。</li> </ul>	<b>制作体験(工作・美術)～実用的なものから遊べる制作物まで～</b> 西小倉なかよし学童クラブ 受講者数:指導員14人	子ども健康学科 富永 剛	H28年度
活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の啓もう</li> <li>もっと1～6年生が気軽にできたり、夏に取り組める例を知りたい。</li> </ul>	<b>いろんな学年の子どもたちを楽しく遊ばせよう</b> 星の子・木屋瀬放課後児童クラブ 受講者数:指導員23人	人間発達学科 萬徳 紀之	H29年度

【領域④：衛生等】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
応急処置	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハチにさされた、大量の鼻血、けいれん等の応急処置の仕方。</li> <li>インフルエンザ等で隔離が困難であるため、このようなケースの対応について。</li> </ul>	<b>やってみよう！ 緊急対応と応急処置</b> 鴨生田放課後児童クラブ 受講者数:指導員9人	人間発達学科 春高 裕美	H27年度
		<b>応急処置～実際にやってみよう、 緊急対応と応急処置～</b> 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 受講者数:指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
おやつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童に多い疾病、食物アレルギーに関する対処方法等</li> <li>簡単で時間と手間をかけずにできる手作りおやつのレシピ紹介</li> </ul>			
アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>アナフィラキシーショックの対応(エピベン使用)の研修</li> <li>アレルギーの「完全除去」「製造ラインから除く」等、基礎的な知識とおやつ工夫を知りたい。</li> </ul>	<b>応急処置～実際にやってみよう、 緊急対応と応急処置～</b> 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 受講者数:指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
不審者対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>不審者が侵入した際の子どもの誘導、カラーボールを準備して投げる等</li> <li>女性でも子どもたちを守る護身術等。他に救急対応、不審者対応等</li> </ul>	<b>不審者対応と護身術</b> 永犬丸放課後児童クラブ 受講者数:指導員8人	人間発達学科 神代 明	H29年度
			子ども健康学科 松崎 守利	

### (4) 公開講座の実施内容

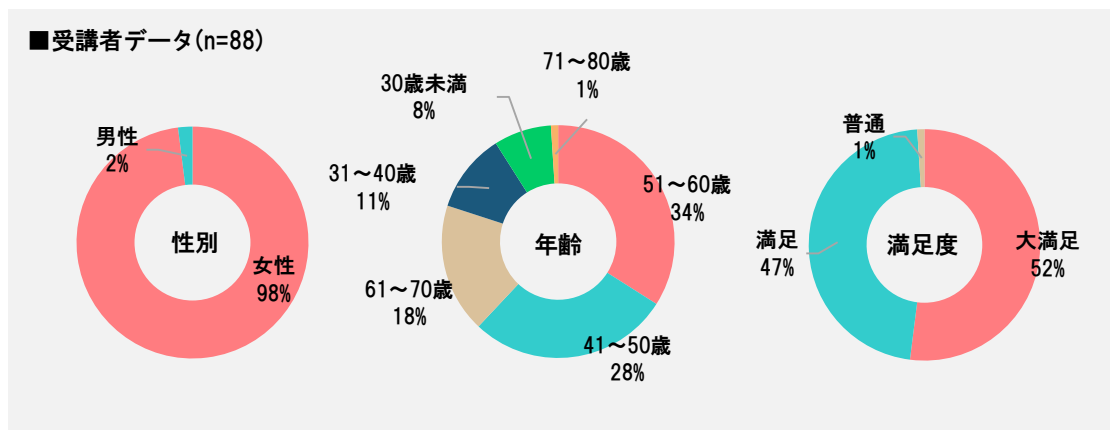
<b>タイトル</b>	応急手当の基本と食物アレルギー対応	
<b>担当教員</b>	九州女子大学 人間科学部人間発達学科(人間発達専攻) 講師 春高裕美	
<b>実施日時</b>	令和元年6月6日(木) 9:30~11:30	
<b>実施場所</b>	北九州市役所本庁舎 3F 大会議室	
<b>受講者数</b>	指導員88人	
<b>目的</b>	基本的な健康観察の方法や、緊急時対応について学ぶ。	
<b>概要</b>	放課後児童クラブの指導員に求められる緊急時の役割と対処方法を分かりやすく講義する。加えて、日常的に起こる怪我や病気の応急処置について、事例を通して演習する。	
<b>準備</b>	①配付資料、②ビニールエプロン、③ビニール手袋、④マスク 等	
<b>講座の展開</b>		
<b>主な講座内容</b>	<b>留意点</b>	
<b>①誰でもできる基本的な健康観察</b>  <b>②緊急時のいろは</b>  (20分)	<b>①誰でもできる基本的な健康観察</b> 様子をみてよいのか、明日受診なのか、それとも即受診なのか、見極めるポイントを学ぶ。  <b>②緊急時のいろは</b> 緊急事態が発生した際の指導員の動き、保護者への連絡のタイミングや留意点について学ぶ。スマートフォンの活用や救急アプリを紹介する。	
<b>③日常保育で起こりやすい事例検討</b> 事例A:気分不良(熱中症編) 事例B:食物アレルギーの子どもが入所。 さあ、どうする?(エピペン編) 事例C:多動・衝動性の高い子の援助 (気になる子編)  (60分)	<b>③日常保育で起こりやすい事例検討</b> A:熱中症の対応の実際と、見落としとしてはならない観察ポイントを学ぶ。 B:エピペンの打ち方を実践をもとに学ぶ。 C:多動・衝動がなぜおこるのか、病態を学び、指導員の心構えを学ぶ。	
<b>④事例に応じた演習</b> 事例D(演習):骨折の固定法 事例E(演習):ノロウイルスが大流行 嘔吐物の正しい処理は?  (20分)	<b>④事例に応じた演習</b> D:身近にあるもので骨折を固定する。 E:嘔吐物の処理について実践する。  (全員)	



講話(緊急時のいろは)



事例に応じた演習(嘔吐物の処理)



### 受講者の声

- 具体的な内容でとてもわかりやすかったです。もっと聞きたいと思いました。
- 春高先生の優しい雰囲気が聞き心地がよく、とてもわかりやすかったです。
- 今年の4月から食物アレルギーの子どもが入所しましたので対応の確認ができました。
- 実践に活用できる知識を幅広く教えていただき、とても勉強になりました。
- 大変わかりやすく、熱中症の仕組みはとても勉強になりました。
- 前回よりも内容が充実し、新たな情報も得ることができました。スマートフォンの活用も念頭に置きたいと思います。
- 具体的な判断基準や対処方法を教えていただき、為になりました。

### 担当教員の感想

今年度も北九州市内各区より、放課後児童クラブの指導員の方にお集まりいただきました。今回も実技や実演を交えて研修を行いました。前回の研修でいただいた質問をもとに、改編し事例検討を行いました。このような研修会では稀ですが、PDCAサイクルも回せたように思えます。この積み重ねが、今後の北九州市の放課後児童クラブの発展に寄与できれば大変嬉しく思います。

## 第2章 令和元年度の地域連携事業

### IV. インターンシップ推進事業

インターンシップについては、日本再興戦略においてその有効性が再認識され、「質」および「量」の向上が求められている。本学においても、国の政策に基づきインターンシップの需要が高まることを考慮し、地元企業を中心としたインターンシップ推進事業に取り組むことで、学生のインターンシップへの参加を促進している。

令和元年度は、北九州市と地元大学との連携による文部科学省補助事業「地(知)の拠点による地方創生事業(COC+)」の文系インターンシップ、および課題解決型インターンシップをはじめ、様々なインターンシップを推進し、多数の学生を派遣した。

#### 1. インターンシップの種類

<b>文系インターンシップ(COC+事業)</b>
北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉強意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。
<b>課題解決型インターンシップ(COC+事業)</b>
北九州商工会議所が実施主体となり、北九州市内の学生に社会的基礎力を修得させるため、地域産業や企業等の課題を題材として実施する課題解決型の事業である。
<b>(一社)九州インターンシップ推進協議会 短期仕事理解型インターンシップ</b>
九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。
<b>山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ</b>
山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップを通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。

#### 地域教育実践研究センター

地域教育実践研究センターでは、各インターンシップの夏季および春季の参加者を募集し、参加希望者の応募手続きを行っている。

COC+事業  
文系インターンシップ

COC+事業  
課題解決型インターンシップ

(一社)九州インターンシップ推進協議会  
短期仕事理解型インターンシップ

山口県インターンシップ推進協議会  
インターンシップ

#### インターンシップを通じて学べること

- 業務内容や企業について深く知ることができる。
- 今後の業界・職種・企業選びやキャリアプラン設計の材料となる。
- 社会人としての意識、働くことへの意識が身につく。
- 実務の業務スキルが得られる。

## 2. インターンシップ参加スケジュール

インターンシップに参加する学生に対して、本学独自の事前研修を行い、社会に必要なスキルを事前に身につけたうえで企業へ派遣するフォロー体制を整えている。また、インターンシップ終了後は、職員による事後面談を行い、インターンシップ時の評価をフィードバックし、その後の就職活動に繋げている。インターンシップ参加のスケジュールは、以下のとおりである。

### (1) 夏季インターンシップ

5月

#### 参加学生の募集開始

チラシ掲示による案内、キャリアデザイン科目等での説明  
必要書類の提出

6月

企業と学生のマッチングによる受け入れ先決定

7月

#### 学内事前研修

インターンシップの意義やマナーについて学内で研修

**学外事前研修** ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る  
主催側によるインターンシップの意義、マナーについて他大学参加者と共に研修

8~9月

インターンシップ

9月

**学外事後研修** ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る  
主催者側によるインターンシップの振り返り

10月

#### 事後面談

学内担当者とインターンシップの評価のフィードバックと振り返り面談



### (2) 春季インターンシップ

11月

#### 参加学生の募集開始

チラシ掲示による案内、キャリアデザイン科目等での説明  
必要書類の提出

12月

企業と学生のマッチングによる受け入れ先決定

1月

#### 学内事前研修

インターンシップの意義やマナーについて学内で研修

**学外事前研修** ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る  
主催側によるインターンシップの意義、マナーについて他大学参加者と共に研修

2~3月

インターンシップ

3月

**学外事後研修** ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る  
主催者側によるインターンシップの振り返り

4月

#### 事後面談

学内担当者とインターンシップの評価のフィードバックと振り返り面談





## 第2章 令和元年度の地域連携事業

### 3. 各インターンシップの実績

#### (1) 文系インターンシップ(COC+事業)

##### ①事業概要

参加大学・人数	九州女子大学:6人 九州国際大学:24人 西日本工業大学:20人 久留米大学:2人 九州産業大学:4人	九州共立大学:11人 西南女学院大学:29人 日本経済大学:21人 長崎県立大学:2人 東亜大学:1人	北九州市立大学:30人 折尾愛真短期大学:5人 近畿大学:4人 下関市立大学:3人 計:延べ162人
企業数	参加企業数:夏季58社/春季93社 受入企業数:夏季38社/春季38社		
実施期間	夏季:令和元年8月～9月 春季:令和2年2月～3月		

##### ②本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	実習内容	人数
夏季	(株)グローバルマーケット	8/19～21	3日	図面作成、接客業務等	1
	(株)ルネ	8/27～29	3日	接客業務、縫製体験等	1
計(延べ人数)					2
春季	(株)ナフコ	2/10	1日	接客業務、面接官体験	1
	小林青果(株)	2/18	1日	市場見学、商品化業務	2
	(株)ハンズマン	2/19	1日	検品・発注業務	1
計(延べ人数)					4
合計(延べ人数)					6

学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アパレルの仕事が具体的に理解できました。実際に私と年齢の近い社員さんとお話し、普段の会社の雰囲気等を詳しく聞けたので勉強になりました。</li> <li>・社員の方と一緒に物件の下見や写真撮影を行いました。その際にも電話が鳴るとすぐに対応されていました。いつでもどこでもお客様のことを第一に考え、お客様一人ひとりのニーズに合わせた迅速な行動を間近で学ばせていただきました。</li> </ul>
受け入れ先のコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前打合せのときから、配慮ある対応をしていただきました。心配りができる方なので様々な職種で活躍されると思います。</li> <li>・3日間の実習の中で、笑顔がとても素晴らしいなという印象を受けました。営業において、笑顔はとても大事ですので、それが自然にできることは今後強みになると思います。</li> </ul>

#### (2) 課題解決型インターンシップ(COC+事業)

##### ①事業概要

参加大学・人数	九州女子大学:4人 北九州市立大学:2人 西南女学院大学:2人 西日本工業大学:2人	計10人
実施期間	令和元年8月23日～8月30日	

##### ②実施内容

プログラム	1日目:北九州ゆめみらいワーク見学・出展企業へのヒアリング等 2日目:北九州市役所訪問、会員企業訪問 3日目:会員企業訪問 4日目:調査研究、報告書の作成 5日目:報告書の作成、報告会準備 6日目:報告会準備、報告会
-------	---

学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告会の資料のレイアウト等を決める際に、これまでの授業の学びが活きました。</li> <li>責任感を持って仕事遂行することの重要性について、改めて学ぶことができました。</li> </ul>
受け入れ先のコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のメンバーとのコミュニケーションも円滑にでき、積極的な発言でグループをまとめていましたので、リーダーとしての素質が備わっている印象を受けました。</li> <li>初めは少し緊張した面持ちでしたが、日ごとにその緊張もほぐれ、積極的に発言する場面が多くみられました。</li> </ul>

### (3) (一社)九州インターンシップ推進協議会 短期仕事理解型インターンシップ

#### ①本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	実習内容	人数
夏季	日本生命保険(相) 福岡総合支社	9/2～6	5日	プランニング、プレゼン等	1
	(株)ミライロ	9/2～13	10日	一般事務、検定補佐等	1
	(株)武久	9/3～14	10日	パッケージ考案、セミナー等	1
	(特非)箱崎自由学舎 ESPERANZA	9/9～13	5日	資料整理、電話対応等	1
計					4
春季	(株)書肆侃侃房	2/18～2/28	8日	出版業務、書店運営	1
計					1
合計					5

学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回インターンシップに初めて参加して、実際に企業の経営や、働いている現場を間近で見ることが、また、社会人の方と話をすることができ、自分の働いている姿を想像することができました。</li> <li>自分の長所、短所を客観的に知ることができたため、就職活動での自己分析に活かしていきたいと思います。</li> </ul>
受け入れ先のコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>とても心遣いのできる方でした。ちょっとした一声、ちょっとした手間が素晴らしかったです。学ばせていただきました。また、とても冷静にその場の状況を読み取る力、自分への課題に落とすことができる力は人一倍あると思います。</li> <li>積極的な姿勢と、親しみやすい人柄ですぐに子どもたちとの信頼関係も築けていました。</li> </ul>

### (4) 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ

#### ①本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	実習内容	人数
	防府市役所	8/20, 21, 26, 27, 9/10	5日	施設管理業務	1
合計					1

学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>このインターンシップに参加していた他大学の学生との交流や、日頃接することのない環境で活動することができ、とても充実した実習でした。</li> </ul>
受け入れ先のコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化・スポーツ施設を管理する立場を経験してもらい、新たな視点を持つきっかけになれば、有意義な実習だったと思います。</li> </ul>

## 第2章 令和元年度の地域連携事業

### V. 学生ボランティア事業

本学は、幼児教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、グリーンティーチャー等として、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校等に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、病院施設、図書館等にも学生を派遣している。

令和元年度は、以下のとおり学生を派遣した。

#### 九州女子大学

#### 1. グリーンティーチャー

取得免許毎の学生の実践力向上を図る事業について、「グリーンティーチャー」と命名し、グリーンとは、「緑の、未熟な、未経験の、元気のいい、若々しい、新鮮な」という意味を含んでいる。教育現場等において、園児や児童の指導補助・学習支援等を通し、学生の実践力を身につける本学独自の取り組み。

##### (1) 幼稚園・保育所

派遣先	人数
九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園	30
九州女子大学附属折尾幼稚園	10
九州女子大学附属鞍手幼稚園	1
本城西幼稚園	5
若松コスモス保育所	2
浅川保育園	3
赤間保育園	8
栄美保育園	9
<b>合計</b>	<b>68</b>



##### (2) 小学校

派遣先		人数
北九州市	門司区 西門司小学校:1人 大里柳小学校:2人 小森江西小学校:1人 港が丘小学校:1人 門司海青小学校:1人	6
	小倉北区 井堀小学校:1人 清水小学校:1人 敬愛小学校:1人 三郎丸小学校:1人 日明小学校:1人	5
	小倉南区 企救丘小学校:1人 北方小学校:1人	2
	戸畑区 天籟寺小学校:1人 戸畑中央小学校:1人 あやめが丘小学校:1人	3
	若松区 赤崎小学校:1人 二島小学校:2人 藤木小学校:1人 鴨生田小学校:1人 小石小学校:1人	6
	八幡東区 槻田小学校:1人	1
	八幡西区 浅川小学校:1人 穴生小学校:1人 折尾東小学校:13人 則松小学校:8人 黒崎中央小学校:3人 折尾西小学校:9人 黒畑小学校:2人 光貞小学校:1人 医学生小学校:4人 本城小学校:6人 筒井小学校:2人 萩原小学校:2人 木屋瀬小学校:3人 星ヶ丘小学校:2人 八児小学校:1人	58
<b>計</b>	<b>81</b>	
中間市	中間小学校:3人 中間東小学校:1人 中間北小学校:4人	8
<b>計</b>	<b>8</b>	
その他	青柳小学校:1人 赤間西小学校:1人 東郷小学校:3人 南郷小学校:2人 河東小学校:1人 菊田小学校:1人 勾金小学校:2人 幸袋小学校:3人 小楠小学校:1人 頃末小学校:3人 犀川小学校:1人 下境小学校:1人 新宮小学校:1人 吉木小学校:3人 戸切小学校:1人 日の里西小学校:2人 東住吉小学校:1人 稗田小学校:1人 広渡小学校:2人 与原小学校:1人 三毛門小学校:1人 小竹南小学校:1人 上穂波小学校:1人 山鹿小学校:1人 千鳥小学校:1人	37
	<b>計</b>	<b>37</b>
	<b>合計</b>	<b>126</b>

##### (3) 芦屋校区土曜学び合いルーム

派遣先	人数
芦屋町中央公民館	15
芦屋東公民館	14
山鹿公民館	22
<b>合計</b>	<b>51</b>

##### (4) 特別支援学校

派遣先	人数
北九州市立八幡西特別支援学校	3
北九州市立八幡特別支援学校	6
北九州市立小倉総合特別支援学校	2
北九州市立小池特別支援学校	7
北九州市立小倉南特別支援学校	2
<b>合計</b>	<b>20</b>

#### 【学生のコメント】

- 初めて、学習支援ボランティアに参加したのは、2年生の後期でした。その時は、教育実習に行く前で、学校に行っても子どもたちに支援することも初めてでした。「先生」と呼んでくれる子どもたちのおかげで、少しずつ先生としての自覚や先生になりたいという思いが大きくなっていきました。ボランティアで学んだことは、教員採用試験の討論や面接でも役に立ちました。実際に小学校に行くと、肌で感じることができ、貴重な体験でした。

## 2. 病院・施設ボランティア

病院(病児保育)・施設(療育施設)において、多様な保育環境に対応できる保育者を育成する取り組み。

派遣先	人数
産業医科大学病院(小児病棟)	4
中間市 親子ひろばリンク	2
小池学園	1
<b>合計</b>	<b>7</b>

### 【学生のコメント】

- 入所施設でのボランティアは初めてで、最初は戸惑いでしたが、職員の方が丁寧に指導してくださいました。入所している児童の性格や特徴、サポート方法などを教えていただいたので、スムーズにボランティアに取り組みました。
- 子ども自身が挑戦することの大切さと、支援と見守りの両方の重要性を実感しました。子どもの成長をそばで見られ、貴重な経験ができました。

## 3. 図書館ボランティア

図書館において、図書館司書資格に必要な知識と技術を実務経験を通して身につけ、現場で図書館司書の役割等を理解する取り組み。

派遣先	人数
そねっと	2
芦屋町立図書館	1
鞍手町中央公民館図書室	5
山口市立阿知須図書館	1
中間市民図書館	3
飯塚市立ちくほ図書館	1
飯塚市立図書館庄内図書館	1
飯塚市立図書館飯塚図書館	3
福岡東図書館	2
福津市立図書館	1
ひびきの図書館	3
北九州市小倉南図書館	2
北九州市立若松図書館	1
北九州市立若松図書館島郷分館	1
北九州市立八幡西図書館	7
北九州市八幡図書館	1
<b>合計</b>	<b>35</b>

### 【学生のコメント】

- 今までは利用者だったため手続きのところしか見えていませんでしたが、司書の方はカウンターでイベントの準備や選書、ポップづくりなど合間を縫って作業していて直接サービス以外の業務が多いことを知ることができました。
- 私は今回のボランティア活動を通し、今まで得ることのできなかった経験を得ることができました。また、当初の目的である図書館学への意欲向上、理解度の向上、新たな経験の三つを達成することができました。その反面、活動への参加回数はスケジュール管理ができておらず少なくなってしまうこと、活動中積極的に行動できなかったことが反省点です。今回の経験を活かし、今後も図書館学を意欲的に学び続けたいと思います。



## 九州女子短期大学

## 4. 幼稚園・保育所・施設ボランティア

幼稚園・保育所・施設の行事等の多様な活動において、役割や仕事を実践・思考することで、職業人として必要な力を育成する取り組み。

派遣先	人数
九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園	20
九州女子大学附属折尾幼稚園	21
九州女子大学附属鞍手幼稚園	15
桜ヶ丘幼稚園	3
久保保育園	7
福岡コロニー	3
障害児支援施設 あおばの里	20
北九州市立若松ひまわり学園	3
フルーツバスケット(障がい児余暇活動)	7
北九州ゆめみらいワーク2019	7
<b>合計</b>	<b>106</b>



## 5. キャラバン隊

九州女子短期大学の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等に出向き、模擬保育や模擬授業を展開する取り組み。

派遣先	人数
福岡県立八幡中央高等学校	4
福岡県立直方高等学校	12
芦屋保育園(芦屋町)	5
若葉保育所(芦屋町)	5
緑ヶ丘保育所(芦屋町)	5
愛生幼稚園(芦屋町)	4
久保保育園(古賀市)	15
希望ヶ丘高等学校(中間市)	4
福岡県立稲葉志耕館高等学校(嘉麻市)	5
<b>合計(延べ人数)</b>	<b>59</b>

### 【学生のコメント】

- 予期せぬことがあったり、自分のイメージしていた子どもたちの反応と違ったりしましたが、臨機応変に対応できることが大切であると学びました。自分自身を楽しみながら元気に活動を行うことで、良い活動につながると学びました。報告、連絡、相談を小まめにし、自ら積極的に行動することが大切だと学びました。

### VI. その他の地域連携諸事業

#### 1. 北九州・下関まなびとびあへの参画(COC+事業)

本事業は、「北九州・下関まなびとびあ」を中心に地方創生モデルを構築することを目的とした文部科学省の補助事業(COC+)である。産学官の多様な視点から、学生の北九州・下関の定着促進を図る施策について、具体的に検討することを目的に4分野のワーキンググループ(調査研究WG、教育プログラムWG、低学年向けプログラムWG、SDGs人材育成WG)が設置されている。

本学は、昨年度に引き続き、低学年向けプログラムWG、およびSDGs人材育成WGに参加し、各ワーキンググループにおいて意見交換を重ねた。また、令和元年度はCOC+事業の最終年度となるため、事業終了後の方向性を関係組織と確認した。

#### 2. 北九州商工会議所との連携事業

北九州商工会議所の会報誌「北商NEWS」内の情報発信コーナー「キャンパス通信」において、本学学生による教育研究活動の紹介記事を2回にわたって掲載した。

本会報誌は、北九州市内の企業約8,500社、行政機関や関連団体400事業所に配布されるもので、平成29年度から連携協定を締結している大学が持ち回りにより記事を掲載している。本学は、人間生活学科、および人間発達学科(人間基礎学専攻)の2学科を取り上げ、それぞれの特徴や活動内容等について学生目線で紹介した。

掲載号	紹介学科	掲載タイトル
6月号	人間発達学科 人間基礎学専攻	現場で学ぶ「地域臨地研究」見て聞いて新たな知見得る
2月号	人間生活学科	門司中央市場の活性化を目指しリノベーションで雑貨店を開設

#### 3. まちなかフォーラムin折尾への参画

まちなかフォーラムin折尾は、NPO法人老いを支える北九州家族の会が主催で、「明るい高齢社会を目指して」をテーマに認知症の正しい理解と啓発促進、および多世代交流を目的としたイベントである。

令和元年度は、認知症サポーター養成講座、認知症の方や介護をしている家族等が集う交流会に加え、学生や高齢者施設等によるイベントが実施された(令和元年10月19日開催)。本学は地元の大学として地域貢献の観点で、書道部の学生による書道ミニ色紙を来場者へ提供する等、運営に協力し、書道を通じて来場者と世代を越えた交流を図った。



#### 4. 北九州市民カレッジにおける公開講座

北九州市民カレッジは、北九州市(生涯学習総合センター)が主催で、市民に対して多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、人材育成を図ることを目的に運営している講座群である。本学は、平成30年度から北九州市民カレッジ企画運営委員会へ参画し、講座内容の検討等に携わっている。

令和元年度は、人間発達学科の荻原教授による「光源氏と女をめぐる謎!？」をテーマとした全5回の講座を開講し、29名が受講した。また、産業医科大学と連携して栄養学科の巴教授による「生涯を健康に過ごすには？」をテーマとした全5回のうち2講座「若く老いるための栄養学」および「慢性疾患を予防する食事」を開講し、17名が受講した。



#### 5. 大学オリジナルレトルトカレーの開発と販売

本学に伝わるカレーのレシピを栄養学科が復刻し、大学行事において参加者へ提供している。本カレーは、グルタミン酸、イノシン酸、グアニル酸の3成分をバランスよく配合し、スパイス香る独特のビーフカレーに仕上げ、多くの方から好評を得ている。

本学の教育や取り組みを、広く地域へ伝えるため、株式会社はかた本舗と産学連携し、栄養学科監修のもと、本カレーのレトルト開発に着手した。商品名は、「九女復刻咖喱」とし、パッケージの題字は人間発達学科の書道担当教員である古木准教授が書くなど、教育の特色を随所に表している。九女復刻咖喱の販売は、令和2年6月を予定している。



## 6. 北九州ゆめみらいワークへの出展

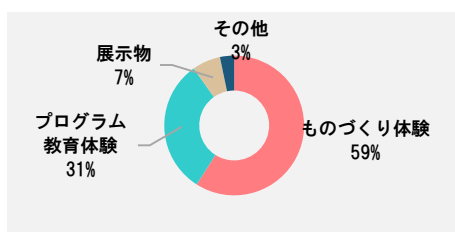
令和元年8月23日、24日の2日間、西日本総合展示場(小倉北区)において、北九州市主催により「北九州ゆめみらいワーク」が開催され、人間発達学科人間発達学専攻、および子ども健康学科の学生が出展した。このイベントは、北九州地域の小中学生、高校生、大学生、および保護者・教員等を対象に仕事や進学について考え、地元の魅力を知るキャリア育成イベントである。2日間で企業・大学・短期大学・専門学校等、134団体が参加し、延べ7,504名の来場に対して趣向を凝らした魅力をアピールした。

本学のブースでは、人間発達学専攻は「先生という夢を叶えるチーム九女」をテーマにプログラミング体験、ものづくり体験等、また、子ども健康学科は「3つの美様miyou-やってみよう-」をテーマに保健室の先生のお仕事体験、うちの製作体験、手遊び・歌遊び体験等を実施し、計352名の高校生等で賑わった。

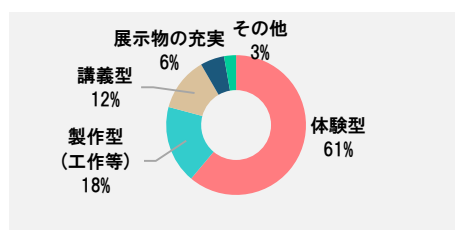
### 九州女子大学 人間発達学科(人間発達学専攻)

#### ■ブース来場者のアンケート結果 一部抜粋(n=56)

設問：本学のブースでどのようなことに興味を感じましたか



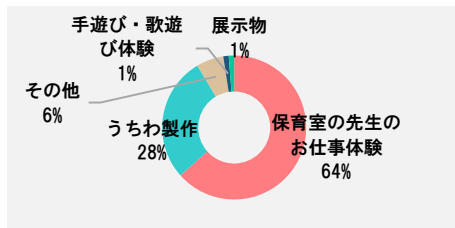
設問：今後どのようなブースに来場したいと思いますか



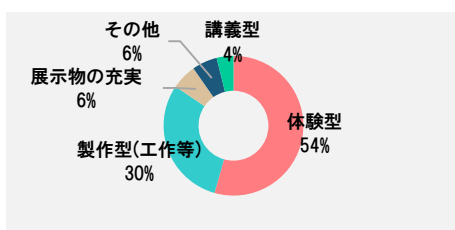
### 九州女子短期大学 子ども健康学科

#### ■ブース来場者のアンケート結果 一部抜粋(n=82)

設問：本学のブースでどのようなことに興味を感じましたか



設問：今後どのようなブースに来場したいと思いますか



## 第2章 令和元年度の地域連携事業

### 7. 折尾二三会との連携事業「おりちょこランド」の開催

#### (1) 概要

人間生活学科のカリキュラムの中で、学生の社会的基礎力育成のため、近隣地域の団体との共同による連携事業を実施した。人間生活学科の2年生5名が要となり、折尾二三会※と連携し、子ども職業体験イベント「おりちょこランド」の企画・運営に携わった。

※折尾二三会とは、1984年に誕生し、折尾地区を中心とした若手経営者による異業種交流団体である。

#### (2) 実施内容

本イベントは、小学生以下の子どもたちを対象とし、職業体験を通じて折尾地区の企業に対する理解を深め、将来地元での就職を促すことを目的としている。

本学の学生は、運営として参画し、イベントの企画、イベント名の決定等に携わった。「おりちょこランド」という名称は、「折尾のちょこつとした国」をモチーフに子どもが馴染みやすいネーミングとして学生が提案した。

イベント会場には、カメラマン、歯医者、飲食店等12の職業体験、親子で楽しめる縁日コーナー、飲食ブースの出店、およびステージイベント等を準備した。職業体験では、子どもたちが報酬として地域通貨「オリオン※」を受け取り、受け取ったオリオンを会場内の様々なブースにて使用できる仕組みとした。

イベント当日は、約1,500名の親子連れが楽しく有意義な時間を過ごし、折尾地区の活性化に繋がった。子どもたちは職業体験を通して、様々な職業の魅力を感じ、地元企業への理解を深めることができた。次年度はより多くの子どもたちが職業体験を行えるように企業ブース・飲食ブースを拡大する予定である。

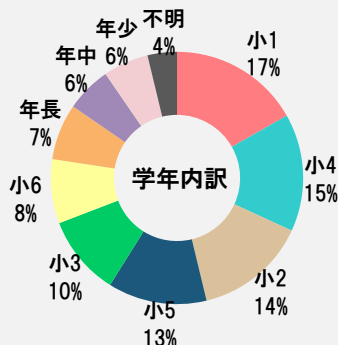
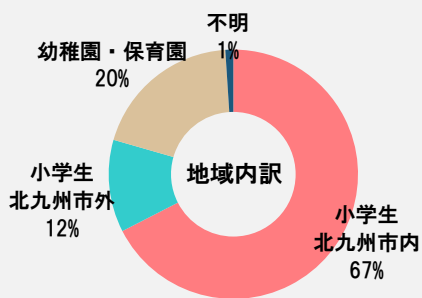
※オリオンとは、NPO法人地域通貨オリオン委員会が発行する地域通貨であり、折尾地区の賛助会員店や地域のイベント等で利用することができる。

日程		活動内容
4月	22日	折尾二三会会長からの説明会
	23日	折尾二三会「4月定例会」出席
5月	10日	実行委員会①
	17日	実行委員会②
	20日	折尾二三会「5月定例会」出席
	27日	実行委員会③
6月	10日	実行委員会④
	21日	実行委員会⑤
	26日	折尾二三会「6月定例会」出席
7月	8日	実行委員会⑥
8月	2日	実行委員会⑦
9月	18日	実行委員会⑧
	24日	折尾二三会「9月定例会」出席
	25日	実行委員会⑨
10月	2日	実行委員会⑩
	9日	実行委員会⑪
	16日	実行委員会⑫
	18日	ボランティア説明会
	22日	第1回おりちょこランド開催
11月	25日	折尾二三会「11月定例会」出席

#### (3) 職業体験「おりちょこランド」基本情報

日 程	令和元年10月22日(火)
会 場	ドライビングスクール折尾
目 的	主に幼稚園から小学生までの子どもたちを対象に、職業体験を通じて折尾地区の企業の魅力伝え、将来地元での就職へ繋げる。
実施内容	12の職業体験、縁日コーナー、飲食ブースの出店、ステージイベント等
参加費	無料
対象年齢	4～12歳(保護者同伴)
来場者	約1,500人
主 催	九州女子大学、折尾二三会、九州共立大学
後 援	北九州市、北九州市教育委員会、学校法人福原学園、地域通貨オリオン実行委員会
実行委員	九州女子大学:5人、折尾二三会:4人、九州共立大学:2人 ボランティア:九州女子大学42人、九州共立大学15人

■受付カード記録者データ(n=292)  
 (職業体験または入場整理券が必要な体験ブースに参加した子どもたちが記入)



多くの人で賑う受付



職業体験を楽しむ子どもたち



学生によるステージイベントの進行



「おりちょこランド」を終えて

#### (4) 成果発表

令和2年1月22日、授業の活動報告会において、主要学生3名が職業体験「おりちょこランド」の企画から実施までの活動報告や学んだこと等を発表した。

##### 学生のコメント

- ポスター案作成(6月)、ボランティア募集(7月)、SNS開始(8月)等、私たちの考えた内容をもとにイベントの企画が進んでいくにつれ、イベント当日の10月22日が楽しみな気持ちもありましたが、この企画で良かったのかという不安な気持ちの方が大きかったです。不安を少しでも減らすために困ったことがあれば小さなことでもすぐに聞くこと、自分の役割の進捗情報をこまめに伝え、自分たちのすべきことを整理するというを行いました。
- 今回のイベントの企画や運営に携わったことで、様々なことを学ぶことができました。もちろん、1つのイベントを行うことの大変さを学べたことは私たちの大きな財産となったと思います。
- 半年間、たくさん悩んで企画したイベントで子どもたちの楽しそうな姿を見ることができ、気持ち的にはひと回りもふた回りも大きくなったような気がします。





### Ⅶ. 他の国内大学との連携事業

#### 1. 青森県立保健大学との協定締結

令和元年7月31日、青森県立保健大学において「青森県立保健大学と本学におけるベトナム国ナムディン看護大学及びベトナム国立栄養研究所との交流活動に係る連携・協力に関する協定」を締結した。

本学では、ベトナムのナムディン看護大学、および国立栄養研究所との学術・教育交流協定を締結しており、共同研究、相互交流等を行うことを目指している。今後、青森県立保健大学とは、ベトナム国との交流活動を連携・協力して推進するとともに、同大学との特定領域における共同研究、および教職員・学生の相互交流を図り、教育・学術研究の質向上、人材育成、および大学間交流等を実施する予定である。

#### 連携事項

- ① ベトナム国ナムディン看護大学及び国立栄養研究所との交流活動の情報交換及び支援に関すること
- ② 教職員の交流に関すること
- ③ 共同研究の実施に関すること
- ④ 学生の交流に関すること
- ⑤ 図書館等の教育研究施設・設備の共同利用に関すること
- ⑥ 研究成果、学術刊行物及びその他の学術・文化情報の交換に関すること



#### 2. 青森中央学院大学・青森中央短期大学への視察

令和元年7月31日、本学と青森中央学院大学・青森中央短期大学と共通する教育・研究分野において、学生・教員間の交流、また、職員間交流における新たなSDの推進等の連携を模索するため、両大学の理事長、学長をはじめとする関係幹部で情報交換を行った。各大学の特色ある取り組みについて情報交換し、アクティブラーニング室、奏楽室、ピアノ演習室等の施設を見学した。

本学と青森中央学院大学・青森中央短期大学は、立地的には遠方であるが、類似の学問分野を有していることから、地域を超えた教職員間交流、および学生間交流について今後模索していく。



## VIII. 研究活動

### 1. 学会報告：地域活性学会「第11回研究大会」

#### (1) 概要

本学の地域教育実践研究活動をさらに発展させるため、他大学等の地域連携事業に関する研究や事例の情報等を得ることを目的に、平成28年度から地域活性学会の団体会員に大学として加入している。地域活性学会は、内閣官房・内閣府と連携した「地域再生システム論」の授業を開講している大学が中心となり、平成23年10月、地域再生を目指して設立された。現在、約650名の会員で構成されており、年1回の全国大会のほかシンポジウムや研究会を随時企画し、地域活性のための人材の育成、学際的な探究、研究成果の地域への還元、研究ネットワークの構築を柱として、地域活性化の取り組みを支援する学術研究活動を目指している。

令和元年度は、本学会の第11回研究大会が令和元年9月14日から15日の2日間で開催され、本学からは地域教育実践研究センター副所長、および事務職員が参加し、本学の取り組みについて事例を発表した。

#### (2) 地域活性学会「第11回研究大会」の基本情報

テーマ	「大村湾を中心とした地域連携～多様性と国際性～」
日程	令和元年9月14日(土)～15日(日)
会場	長崎県大村市(大村市コミュニティーセンター他市内会場)
参加者	2日間で254名

#### (3) 本学の発表内容

本学は、自治体・団体特別発表(第6会場)において、以下のテーマについて事例を発表した。

テーマ	地域における実践教育の展開とSDGsの推進 —大学と自治体との組織的な連携の実践—
<p>平成27年度から平成30年度における、自治体(北九州市・芦屋町・水巻町)との組織連携による事業実績、およびSDGsをテーマとした高大接続事業の事例を発表した。</p> <p>自治体との事業実績については、4年間の事業実績を事業毎にSDGsのゴールを設定し、本学の特色・強みを整理のうえ示した。高大接続事業については、八幡南高等学校と取り組んでいる「北九州SDGs探究学習プログラム」において、人間生活学科の学生がファシリテーターとして高校生をサポートする実践教育の事例を示した。</p> <p style="text-align: right;">※発表原稿はP44参照</p>	



大村市コミュニティーセンター



事例発表の様子

#### (4) 感想・今後の展開

本学発表後の意見交換では、SDGs推進に伴う内部組織の理解促進について意見が集中した。他団体・大学では、北九州市とは異なり、行政の協力を得ることが困難であるため、内部組織におけるSDGsの推進に難航している等の意見があった。本学においては、一部のカリキュラムの中でSDGsの取り組みを実施しているが、今後の課題として、全学的な推進に向け学内における理解を得る必要がある。また、SDGsと教育を結び付け、学生や外部に大学の特色を可視化する等、課題や活用方法について改めて考えさせられた。他団体の発表については、大学内に市の職員が共同研究員として常駐し、大学、行政、および企業を繋げ、円滑な産官学連携を行っている事例を報告していた。また、同大では複数市の職員が常駐していることから、広域な連携も可能としており、本学とは異なった組織連携を構築していた。今後、大学は教育研究機関として、様々な外部組織と繋がり地域や産業の活性化に貢献することが使命であることを再確認した。

### IX. SDGs推進事業

#### 1. SDGsとは

SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された、貧困や不平等、気候変動などの様々な社会課題や環境問題を根本的に解決し、より良い生活を送ることができる世界を目指す、世界共通の持続可能な開発目標である。SDGsは、17のゴールと169のターゲットから構成され、2016年から2030年の間、世界中の国々が目標達成に向け取り組んでいる。

本学が位置する北九州市は、内閣府から、「SDGs未来都市」(全国29自治体)、および「自治体SDGsモデル事業」(全国10事業)等に選定されていることから、SDGsを踏まえた取り組みを積極的に推進している。



#### 2. 本学の取り組み

本学は、地域に根差した実践教育を展開する大学として、大学の持つ教育・研究を地域へ還元し、一人でも多くの人々の生活に反映することでSDGsへ繋げる。本誌のP7からP21の事業実績のとおり、自治体との連携事業を通じて、地域課題の解決、教育、栄養・健康に関するSDGsに取り組み、魅力あるまちづくりへ貢献する。



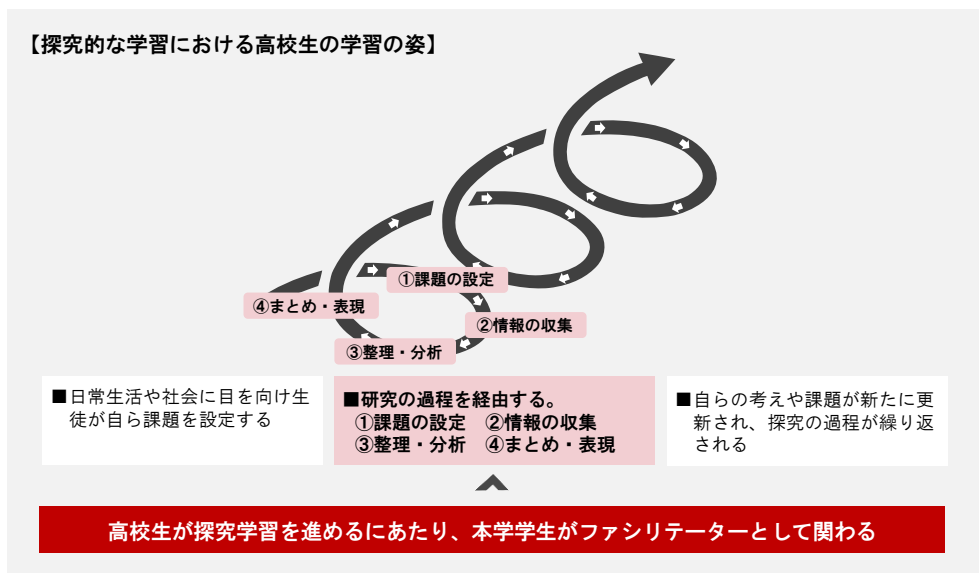
### 3. 北九州SDGs探求学習プログラムへの参画

#### (1) 概要

本学との高大接続連携校である八幡南高等学校において、地域課題の把握等実践的に向き合う「北九州SDGs探求学習プログラム」を実施した。探究学習とは、問題解決に繋がる活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動であり、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の過程を経由して学習を進めるものである。

今回、八幡南高等学校の高校2年生(268名)が、課題解決に取り組む団体や企業等と交流を図り、SDGsを踏まえた地域課題の把握や分析等を行い、探究学習へ取り組んだ。この学習過程において、本学の教員と学生14名が総合的な探究の時間におけるファシリテーター※として高校生に関わり、助言を行った。

※ファシリテーターの主な役割は、中立的な立場から探究活動の進行を促進し、目標の達成に向けサポートを行うものである。



#### (2) 実施内容

本探究学習へ取り組むにあたり、北九州市が抱える課題の中から、SDGsの17の目標に関連する「子育て支援」「地域の活性化」「災害対策」等、7つのテーマが選定され、各テーマについて協力団体による講演を実施した(令和元年5月16日)。高校生は関心のある3つの講演を聴講したうえで、1つのテーマに絞り、班別で本格的な探究学習を開始した。

本学の学生は、ファシリテーターとして高校生生のアドバイスや発表練習の付き添い、発表の講評・助言をする等サポートした。



協力団体によるテーマ別講演



高校生へのアドバイス

## 第2章 令和元年度の地域連携事業

### 【探究学習のスケジュール】

日程	高校生の活動内容	ファシリテーター(学生)の活動内容
4月	18日 探究学習①オリエンテーション1	
	25日 探究学習②オリエンテーション2	
5月	16日 探究学習③北九州市SDGsクラブによる講演の聴講 協力企業・団体による7つのテーマ別講演会の聴講	
	30日 探究学習④テーマ別オリエンテーション <b>課題の設定</b>	
6月	13日 探究学習⑤班別活動 <b>課題の設定</b>	
	20日 探究学習⑥ビジネスマナー講座 <b>情報の収集</b>	
7月	18日 探究学習⑦班別活動 <b>情報の収集</b>	
	20日 探究学習(夏休みフィールドワーク:現地調査) <b>情報の収集</b>	
8月	25日 探究学習(夏休みフィールドワーク:現地調査)	
9月	12日 探究学習⑧班別活動 <b>整理・分析</b>	
10月	11日 探究学習⑨SDGsカードゲーム、北九州市立大学地域創生学群教授による講演、および同大学の学生による授業	
11月	14日 探究学習⑩第一学習社による講演会への参加、および7つのテーマの代表グループによる中間発表	
	28日 探究学習⑪班別活動(中間発表準備) <b>まとめ・表現</b> 九州女子大学の学生による模擬発表の聴講	テーマ別大学生模擬発表 高校生の学習内容へのアドバイス
12月	2日 探究学習⑫班別活動(中間発表準備) <b>まとめ・表現</b>	高校生の発表練習への付き添い、アドバイス
	5日 探究学習⑬中間発表	高校生の発表の聴講 後日、講評とアドバイスを書面で提出
1月	9日 探究学習⑭班別活動(成果発表の活動計画)	
	16日 探究学習⑮班別活動(成果発表準備) <b>まとめ・表現</b>	
2月	6日 探究学習⑯班別活動(成果発表準備) <b>まとめ・表現</b>	高校生の発表の下書きへの付き添い、アドバイス
	20日 探究学習⑰(成果発表準備・練習) <b>まとめ・表現</b>	高校生の発表練習への付き添い、アドバイス
	25日 探究学習⑱ポスターセッション形式による成果発表	高校生の成果発表の講評
3月	5日 探究学習⑲一年間の探究学習の振り返り	

テーマ別探究学習

高校生の中間発表に向け、学生はファシリテーターとして、7つのテーマについて模擬発表を行った(令和元年11月28日)。

中間発表で高校生は、学生による模擬発表の実演を参考に、課題とその理由、情報収集の工夫、フィールドワークの状況、課題解決策、および現段階の探究状況等を報告した(令和元年12月5日)。また、高校生は中間発表を聴講した協力団体・学生から得た講評・助言をもとに、成果発表へ繋げた。

一年に渡る探究学習の総括となる成果発表は、八幡南高等学校の体育館でポスターセッション形式にて実施した(令和2年2月25日)。この成果発表を通し、高校生が互いに取り組んだ研究を知ること、身近な地域課題の解決が国際的な課題(SDGs)に繋がることへの理解を促した。また、今後の社会との関わり方について考えさせ、主体的に学習に取り組む内発的動機づけを図った。本学の学生は、各班の発表を聴講し、客観的評価を行った。



学生による模擬発表



成果発表会



成果発表を聴講する学生

【成果発表におけるテーマ別学生の感想】

探求テーマ	SDGs	課題名(抜粋)	高校生の発表に対する学生の感想(抜粋)
1 環境問題		北九州市の公害	質疑応答では不足があった情報をしっかり調べてきておりよい発表になっていた。中間発表と比べてかなり改善できていた。
		水質汚染	成果発表では中間発表の時より内容がよくなっていた。世界で行われている水質改善の取り組み等についても調べていたため、とてもよかったと思う。
2 地域の活性化		北九州市の活性化	グラフや数値を用いている点と、よいところをもっと伸ばすという視点がよかった。爆買いに注目しているところが面白いと感じた。
		祭イベントと人口流動	模造紙を丁寧に作っており、とても見やすかった。また、クイズの取り入れ方も上手だった。もう少しゆっくり話すにより伝わったと思う。
3 シブイクプライド		小倉城	模造紙が見やすく、解決策が多かったのはよかった。解決策をもっと具体的にするとよりよい発表になると思った。
		わっしょい百万夏祭りで北九州を知ってもらうには	とても聞き取りやすく、説明もわかりやすかった。模造紙だけでも情報が伝わってきた。質疑応答にもしっかりと応えていた。
4 災害対策		避難場所	起承転結がしっかりしていたため、発表の内容はすぐ伝わってきた。解決策をもっと詳細にイメージしていたら、よりよかった。
		防災グッズ	内容と説明はとても良かった。もっと深く調べ、身近な具体例等があるとよいと思った。
5 多文化共生		どうしたら貧困をなくせるか だろうか～フェアトレードを 知ってもらう～	とても興味深く、フェアトレードについて現実的に考えることができているように感じた。自分たちでできることをもっと実践する意気込みが伝わるとよかった。
		北九州市の在住外国人にどの ように生活情報を伝えるか	外国人が困っている現状がわかりやすく説明できており、質問にもしっかり答えられていた。外国人向けのごみ分別テーマを考えるなど工夫も凝らしていた。
6 子育て支援		少子化問題による保育園や幼稚園への影響	興味深い内容だった。解決策がもっと具体的だったら良かったと感じた。実現できるかもしれないと思わせる解決策だった。
		子ども医療を知ってもらう ためには？	模造紙を指しながら説明していたところがよかった。難解な言葉の説明も上手だった。質問に対する事前準備をしておくによりよかった。
7 若者の地元定着		イベントで地元定着	実際にアンケートをとっていたのがよいと感じた。模造紙は見やすかった。中間発表よりイベント開催と定住(定着)との関係を具体的に説明できていた。
		北九州市都市化計画	発表の中で説明者からの投げかけがあって興味を持てた。口頭では伝わりにくい部分があったため、模造紙の書き方を工夫すれば、より伝わりやすくなる感じた。

(3) 成果

探求学習に参加した本学の学生は、大学の授業で身に付けた力を活かし、高校生が意見を引き出しやすい雰囲気作りや、意見の整理、合意点のまとめ等、様々なサポートを行ったことにより、ファシリテーターとして大きな役割を果たした。また、ファシリテーターを務めることで、「把握力」「複眼力」「統率力」等の能力の向上に併せ、高校生が学生とは異なる視点で課題への解決策を提案する等、探究学習を通して様々なことを学ぶことができた。

本学習は、SDGsに繋がる取り組みとして、ファシリテーターを務めた学生と高校生にとって、大変意義深いものとなった。

### 第3章 学外実習・介護等体験および教員免許状更新講習等

#### I. 令和元年度 学外実習・介護等体験の実績

教育実習	保育実習	臨地実習	介護等体験	臨床実習
<p>・教員免許状の取得に際して、各学校における観察・参加・実習という教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに、課題を自覚する機会とすべく実習を行うもの。</p>	<p>・保育士資格取得に際して、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深めるために保育所、児童福祉施設等において実習を行うもの。</p>	<p>・管理栄養士免許取得に際して、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識および技能を修得させることを目的として実習を行うもの。</p>	<p>・小学校又は中学校の教員免許状を取得しようとする者を対象に、教員が個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、教員の資質向上および学校教育の一層の充実を図る観点から、特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の体験を行うもの。</p>	<p>・大学で学んだ知識・技術をもとに、医療・介護・福祉の現場における活動の見学や援助を通して、養護教諭としての必要なケアの視点や能力を養う。また、実習体験を通して個人を尊重した対象者とのかかわりの基本と健康や健康障害、発達段階や発達課題に対する支援能力を養うために実習を行うもの。</p>

#### 【九州女子大学】

(人数)

実習名	学科・専攻名	学校種別等	1年	2年	3年	4年
教育実習	人間生活学科	中学校 高等学校				6
	栄養学科	小学校				4
	人間発達学科 人間発達学専攻	幼稚園		51	59	
		小学校		46	12	
	人間発達学科 人間基礎学専攻	特別支援学校			20	
保育実習	人間発達学科 人間発達学専攻	中学校 高等学校			25	
		保育所		48	55	
		児童養護施設等				64
臨地実習	栄養学科	福祉施設・保健所			83	
		小学校			84	
		病院			82	
介護等体験	人間生活学科	特別支援学校 社会福祉施設			14	0
	人間発達学科 人間発達学専攻			47	52	1
	人間発達学科 人間基礎学専攻				20	

#### 【九州女子短期大学】

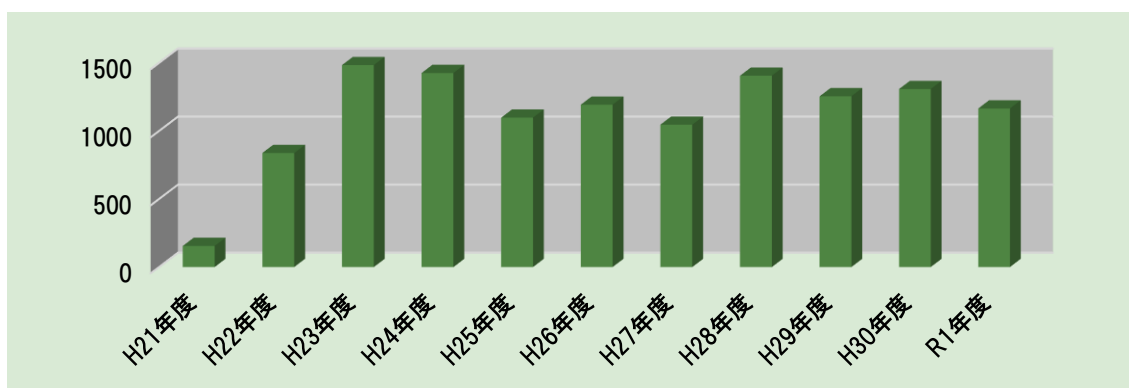
(人数)

実習名	学科・課程名	学校種別等	1年	2年	
教育実習	子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程	幼稚園			
	子ども健康学科 養護教諭養成課程	小学校・中学校 高等学校			55
	専攻科 子ども健康学専攻	小学校・中学校 高等学校			57
保育実習	子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程	小学校・中学校 高等学校	22		
		保育所	45	52	
	子ども健康学科 養護教諭養成課程	児童養護施設等	44	34	
		保育所	29	14	
		児童養護施設等	27	35	
臨床実習	子ども健康学科 養護教諭養成課程	病院・福祉施設			55

## Ⅱ. 教員免許状更新講習の受講者推移(平成21年度～令和元年度)

教員免許状更新講習とは、その時々で求められる教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身につけることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すため、現職教員、教員採用内定者、教員経験者等を対象に平成21年4月1日から導入されたものである。本学においては、平成21年度から教員免許状更新講習を実施しており、講座数および受講者数は以下のとおりである。

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
講座数	15	16	20	20	17	17	19	21	19	20	18
受講者数	155	838	1,484	1,426	1,098	1,193	1,046	1,406	1,255	1,308	1,165



## Ⅲ. 令和2年度 教員免許状更新講習の開設予定講座

日程	領域	講座名	講師名	定員数	講座名	講師名	定員数
8/8 (土)	必修	①教育の最新事情(幼・小)	黒田・鎌田 村上	70	②教育の最新事情(中・高・養)	黒田・鎌田 村上	45
8/9 (日)	選択必修	③学校を巡る近年状況変化、危機管理上の課題(幼・小)	宮本・大江	70	④学校を巡る近年状況変化、危機管理上の課題(中・高・特支)	神代・宮本	45
8/20 (木)	選択	⑤古典に親しむ —源氏物語の世界—	荻原	25	⑥「生きる力」を育む表現・造形遊び	谷口	22
		⑦英語でストーリーテリングにトライ	中島・永末	20	⑧発達障害児の理解と支援	堀江・石黒 阪木	48
		⑨漢字のはなし	古木	30			
8/21 (金)	選択	⑩教室の中の宮沢賢治	荻原	25	⑪英語コミュニケーションの基礎	ダタール	50
		⑫社会保険を主題材にしたALによる教材作成	田中	20	⑬コンピュータを使わないコンピュータ科学入門	宮本・福島	35
8/25 (火)	選択	⑭宮崎アニメを《読み解く》	河原木	40	⑮文系でまなぶプログラミング入門	宮本・城	35
		⑯表現講座	青山・佐藤	20	⑰小児生活習慣病を予防する日本食の力	巴・崎山 白石・山本 新富・塩田	50



## 参考資料

### I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員

地域教育実践研究センター運営委員会		地域教育実践研究センター外部評価委員会	
巴 美樹	地域教育実践研究センター 所長 学生部長 家政学部栄養学科 教授	巴 美樹	学内委員 地域教育実践研究センター 所長
澤田小百合	地域教育実践研究センター 副所長 事務局長	澤田小百合	学内委員 地域教育実践研究センター 副所長
濱寄 朋子	教務部長 家政学部栄養学科 教授	本郷 宣昭	学外委員 芦屋町 企画政策課企画係 係長
西田真紀子	家政学部人間生活学科 教授	藤田 恵二	学外委員 水巻町役場 総務課庶務係 課長補佐
崎山 栄子	家政学部栄養学科 特任教授	實松 秀男	学外委員 北九州商工会議所 産業振興部 部長
蒲原 路明	人間科学部人間発達学科 特任教授	成重 純一	学外委員 北九州市立折尾西小学校 校長
春高 裕美	人間科学部人間発達学科 講師	大塚 友江	学外委員 北九州市小倉社会事業協会 理事
津山 美紀	子ども健康学科 教授	桑原 正樹	学外委員 協同組合折尾商連 事務局長
大迫 正一	共通教育機構 准教授	西田真紀子	学内委員 家政学部人間生活学科 教授
鍋田 智広	人間科学部人間発達学科 准教授	蒲原 路明	学内委員 人間科学部人間発達学科 特任教授
細井 陽子	共通教育機構 講師	大迫 正一	学内委員 共通教育機構 准教授
十河 功一	教務・入試課 課長	津山 美紀	学内委員 子ども健康学科 教授
松田裕次郎	地域教育実践研究センター 主事		

### II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績

月	学内委員会等	外部との会議等
4月		23日 第1回水巻町との連携会議 23日 第1回北九州市との連携会議
5月	30日 第1回地域教育実践研究センター運営委員会	27日 第1回芦屋町との連携会議
6月	24日 第2回地域教育実践研究センター運営委員会 ※メール会議	4日 第2回水巻町との連携会議 13日 第1回SDGs人材育成WG(COC+) 25日 第1回低学年からの就活に向けたWG(COC+)
7月		
8月		
9月		26日 第2回低学年からの就活に向けたWG(COC+)
10月	1日 第3回地域教育実践研究センター運営委員会	24日 第2回芦屋町との連携会議
11月	15日 第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会	
12月	12日 第4回地域教育実践研究センター運営委員会	11日 第3回水巻町との連携会議 20日 COC+事業に係る事務連絡会議
1月		29日 第4回水巻町との連携会議
2月	26日 第5回地域教育実践研究センター運営委員会	5日 第2回SDGs人材育成WG(COC+) 17日 第3回低学年からの就活に向けたWG(COC+) 21日 第5回北九州・下関まなびとびあ運営協議会(COC+) 21日 北九州市・下関まなびとびあ令和元年度事業報告会
3月	26日 第6回地域教育実践研究センター運営委員会	

### Ⅲ. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告

令和元年度は、地域教育実践研究センター外部評価委員会を令和元年11月15日に開催し、平成30年度の連携事業の実績を報告し、令和元年度の連携事業の進捗を共有・確認した。本委員会の中で、以下のとおり学外委員から意見を徴した。

学外委員	意見
芦屋町	<p>鯖ウインナーの試作開発事業は、現在の町の特産品で日持ちする持ち帰り可能な品が少ないため、大変有り難く感じている。芦屋町の保育所・幼稚園におけるキャラバン隊による模擬保育については、平成28年度に1園から始まり、現在4園まで拡大している。また、各種公開講座においても町民から好評を得ているため、今後も引き続きお願いしたい。</p>
水巻町	<p>平成29年度から各種災害食レシピを開発していただき、町民から好評を得ている。引き続きレシピを広く周知することで、町民の防災意識の向上に繋げていく。特産品「でかにんにく」に係るレシピ開発事業については、限られたレシピしか町に存在しなかったが、今後は、貴学が開発したレシピを周知することと併せて、ブランディングに力を入れていきたい。</p>
北九州商工会議所	<p>学生の北九州市への定着を促進する様々な施策を企画しており、地元企業の認知度を向上させるため、学生を対象とした企業訪問バスツアーを実施している。また、大学と地元企業との情報交換会も毎年開催しており、今後もより良いものにしていく予定である。</p>
北九州市立小学校	<p>グリーンティーチャー事業については、現在2名から5名の学生に、学級担任の補助を担ってもらっており、テストの丸付け、印刷、プール清掃等のサポートをしていただいている。引き続き学生には、現場経験が蓄積できる場を提供することで協力をしていきたい。</p>
北九州市 小倉社会事業協会	<p>保育士が不足している状況下でしっかりと職場体験を踏むことで実際に就職する際のイメージができる。また、子どもとの関わりを学べ、保育現場を知ることが学生にとってよい機会になる。</p>
協同組合折尾商連	<p>3年前から学園大通り活性化事業として、イベントを企画・実施しており、地域住民と学生との接点ができた。11月にはイルミネーションの点灯イベントを予定している。今後、学園大通りが国家戦略特区に認定された際は、地元の活性化のための様々なイベントを企画・実施したい。</p>



#### IV. 協定先一覧

本学は以下のとおり、自治体、企業、大学、および団体等と協定を締結している。これらの協定に基づき、外部組織と様々な連携事業に取り組んでいる。

協定先	協定名	締結日
北九州市	北九州市放課後児童クラブの振興に関する連携協定	平成25年9月1日
芦屋町	本学と芦屋町との包括的地域連携に関する協定	平成28年3月29日
北九州商工会議所	本学と北九州商工会議所との連携に関する協定	平成28年6月7日
水巻町	本学と水巻町との包括的地域連携に関する協定	平成31年4月17日
青森県立保健大学	青森県立保健大学と九州女子大学におけるベトナム国ナムディン看護大学及び国立栄養研究所との交流活動に係る連携・協力に関する協定	令和元年7月31日
味の素株式会社 九州支社	本学と味の素株式会社の包括的連携に関する協定	令和2年3月3日

#### V. 地域教育事業一覧(平成25年度～平成30年度)

本学の地域教育事業の実態を分析するため、平成25年度から各学科・専攻等で地域に学生を派遣している事業について、カリキュラム内とカリキュラム外の派遣事業、および派遣人数等を以下のとおり調査してきた。

事業内容		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度		H30年度	
		実数	実数	実数	実数	実数	延べ数	実数	延べ数
人間生活学科	カリキュラム内(学外実習) 教育実習・介護等体験	49	56	53	70	59	59	51	51
	カリキュラム内(一般科目) 地域生活学演習等	28	42	90	136	205	205	277	277
	カリキュラム外 学童クラブ等	9	17	102	126	134	499	102	625
<b>計</b>		<b>86</b>	<b>115</b>	<b>245</b>	<b>332</b>	<b>398</b>	<b>763</b>	<b>430</b>	<b>953</b>
栄養学科	カリキュラム内(学外実習) 栄養教育実習・臨地実習等	276	169	346	240	257	257	247	247
	カリキュラム外 NADAC研修会(H25.26) 芦屋町、水巻町との連携事業	20	33	0	42	28	39	15	21
<b>計</b>		<b>296</b>	<b>202</b>	<b>346</b>	<b>282</b>	<b>285</b>	<b>296</b>	<b>262</b>	<b>268</b>
人間発達学科 (人間発達学専攻)	カリキュラム内(学外実習) 初等教育実習・保育所実習 介護等体験等	550	624	613	574	553	553	464	464
	カリキュラム内(一般科目) キャリアデザイン 卒業研究演習等	576	622	834	696	536	864	467	773
	カリキュラム外 グリーンティーチャー等	554	629	500	475	407	3,886	434	4,302
<b>計</b>		<b>1,680</b>	<b>1,875</b>	<b>1,947</b>	<b>1,745</b>	<b>1,496</b>	<b>5,303</b>	<b>1,365</b>	<b>5,539</b>
人間発達学科 (人間基礎学専攻)	カリキュラム内(学外実習) 中等教育実習・介護等体験等	110	102	87	95	77	77	74	74
	カリキュラム内(一般科目) 図書館概論等	149	118	330	128	120	126	136	136
	カリキュラム外 図書館ボランティア 書道ボランティア等	32	138	58	83	208	424	212	603
<b>計</b>		<b>291</b>	<b>358</b>	<b>475</b>	<b>306</b>	<b>405</b>	<b>627</b>	<b>422</b>	<b>813</b>
共通教育機構	カリキュラム内 日本事情	28	20	20	10	20	20	20	20
	カリキュラム外 日本文化研修	33	56	71	80	72	72	47	47
<b>計</b>		<b>61</b>	<b>76</b>	<b>91</b>	<b>90</b>	<b>92</b>	<b>92</b>	<b>67</b>	<b>67</b>
子ども健康学科	カリキュラム内(学外実習) 教育実習(幼稚園) 養護実習・保育所実習等	814	972	885	796	826	1,034	729	937
	カリキュラム外 キャラバン隊・自主実習等	470	361	330	347	336	482	305	474
<b>計</b>		<b>1,284</b>	<b>1,333</b>	<b>1,215</b>	<b>1,143</b>	<b>1,162</b>	<b>1,516</b>	<b>1,034</b>	<b>1,411</b>
子ども健康学専攻	カリキュラム内(学外実習) 養護特別実習	—	—	27	17	28	28	16	16
	カリキュラム外 スクールヘルパー	—	—	10	10	25	150	3	3
<b>計</b>		<b>—</b>	<b>—</b>	<b>37</b>	<b>27</b>	<b>53</b>	<b>178</b>	<b>19</b>	<b>19</b>
<b>合計</b>		<b>3,698</b>	<b>3,959</b>	<b>4,356</b>	<b>3,925</b>	<b>3,891</b>	<b>8,775</b>	<b>3,599</b>	<b>9,070</b>

## VI. 講師派遣実績一覧

No.	所属	派遣者	派遣内容	派遣日	依頼組織
1	人間科学部 人間発達学科	内田由香利	豊中市教育委員会主催小学校教員研修	R1. 6. 7	(株)学研プラス
2	家政学部 栄養学科	三浦公志郎	管理栄養士のための基礎医学講座	R1. 7. 20	(株)日本医療企画九州支社
3	子ども健康学科	猪野 善弘	臼杵市小中一体教育野津ブロック夏季研修会	R1. 7. 22	臼杵市教育委員会
4	人間科学部 人間発達学科	内田由香利	宇部市教育委員会主催小学校教員研修	R1. 7. 26	株式会社学研プラス
5	人間科学部 人間発達学科	内田由香利	埼玉県教育委員会主催小学校教員研修	R1. 8. 22 R1. 8. 23	(株)学研プラス
6	子ども健康学科	矢野 洋子	令和元年度幼稚園教育理解推進事業部都道府県協議会(保育技術協議会)	R1. 8. 28	福岡県教育委員会教育長
7	人間科学部 人間発達学科	荻原 桂子	平成31年度歴史講座	R1. 10. 25	中間市教育委員会
8	共通教育機構	宮本 和典	ICTリーディングスクール実践報告会	R1. 11. 15	北九州市教育委員会
9	家政学部 人間生活学科	糟須海圭子	平成31年度国産農作物消費拡大事業のうち「和食」と地域食文化継承推進委託事業(和食文化継承の人材育成等事業)に係る研修会	R1. 11. 30	(株)ピーアールセンター
10	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	上毛町子育て力向上講習会 (第2回)	R2. 1. 31	上毛町

## VII. 行政の審議会等委員委嘱実績一覧

No.	所属	氏名	委嘱内容	就任期間	依頼組織
1	子ども健康学科	田中 敏明	大川市子ども・子育て会議委員	H29. 2. 27~R2. 2. 26	大川市
2	家政学部 人間生活学科	田中由美子	広島県消費生活審議会委員	H29. 6. 1~R1. 5. 31	広島県
3	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	住民参画推進会議委員	H29. 8. 1~H2. 9. 29	芦屋町
4	家政学部 栄養学科	濱寄 朋子	北九州市国民健康保険運営協議会委員	H29. 9. 1~R1. 8. 31	北九州市
5	子ども健康学科	田中 敏明	宗像市次世代育成支援対策審議会委員	H30年度第1回審議会 ~2年間	宗像市
6	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	第9期北九州市男女共同参画審議会委員	H30. 4. 1~R2. 3. 31	北九州市
7	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	福岡県教科用図書選定審議会委員	H31. 4. 1~R1. 8. 31	福岡県教育委員会
8	家政学部 栄養学科	巴 美樹	北九州市保健所運営協議会委員	R1. 7. 1~R3. 6. 30	北九州市
9	人間科学部 人間発達学科	村上 太郎	北九州市子ども・子育て会議委員	R1. 7. 16~R3. 7. 15	北九州市
10	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	第7期北九州市人権施策審議会委員	R1. 7月下旬~R3年7月	北九州市
11	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	福岡県総合計画審議会委員	R1. 9月~R4. 9月	福岡県
12	家政学部 栄養学科	濱寄 朋子	北九州市国民健康保険運営協議会委員	R1. 9. 1~R4. 8. 31	北九州市
13	家政学部 人間生活学科	田中由美子	広島県消費生活審議会委員	R1. 10. 16~R3. 10. 15 (予定)	広島県

## VIII. 地域活性学会「第11回研究大会」発表要旨

### 地域における実践教育の展開とSDGsの推進

—大学と自治体との組織的な連携の実践—

○澤田小百合(九州女子大学・九州女子短期大学)・松田裕次郎(九州女子大学・九州女子短期大学)

Keyword : 地域課題解決、実践教育、SDGs

#### 【背景】

九州女子大学・九州女子短期大学(表1以下、「本学」)では、「地域に根ざした実践教育を展開する大学」として、これまで取り組んできた教育・研究を地域社会の発展に資するため、平成27年6月1日に地域教育実践研究センター(以下、「本センター」)を設置した。本センターでは、学部・学科、および教員個々が実施してきた地域との関わりについての実態調査や地域が抱える課題や要望等を把握のうえ、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域との共生」の3本柱を軸として、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組んでいる(図1)。

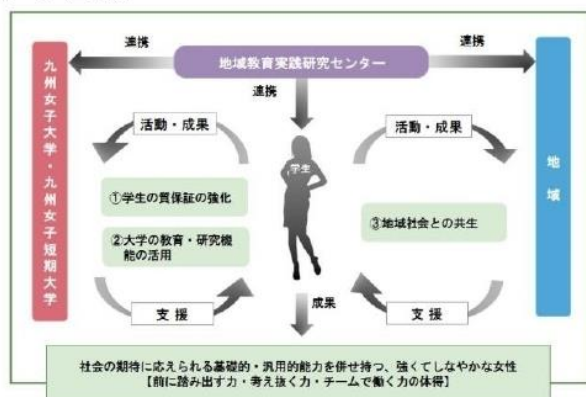


図1 地域教育実践研究センターの役割

本学は北九州市を始め、様々な自治体や団体(北九州商工会議所等)と協定を締結し、連携事業を推進している。本報では、本センターが平成27年度から実施してきた連携事業の中で自治体(北九州市、芦屋町、水巻町)との取り組みに焦点をあて、実施してきた事業が学生や地域にどのように還元できているかについて報告する。

表1 九州女子大学・同短期大学の基本情報

		学部・学科(専攻)	取得可能免許・資格(抜粋)
九州女子大学	家政学部	人間生活学科	中・高齢者論一種免許「家庭」 二級建築士受験資格
		栄養学科	栄養士免許 管理栄養士国家試験受験資格
	人間科学部	人間発達学科 (人間発達学専攻)	幼稚園教諭一種免許 小学校教諭一種免許 特別支援学校一種免許 保育士
		人間発達学科 (人間基礎学専攻)	中学校教諭一種免許「国語」 高等学校教諭一種免許「国語」 「書道」 図書館司書
			1,226名
同短期大学	子ども健康学科	幼稚園教諭二種免許 養護教諭二種免許 保育士	
	専攻科	養護教諭一種免許	
			290名

#### 【連携事業内容】

本センター設置後、本学が位置する北九州市、近隣地域である芦屋町、水巻町と連携事業を推進してきた(図2・図3)。平成27年度の事業開始からこれまでに各事業の充実を図るとともに、新事業に挑戦している(表2)。

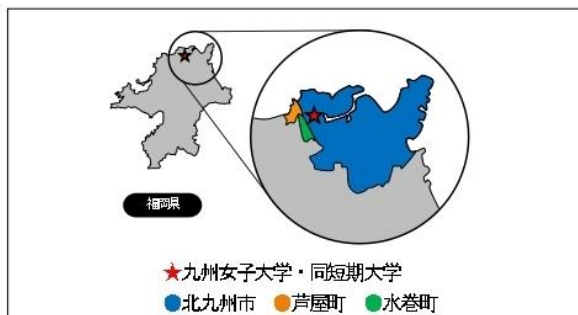


図2 本学と各自治体の所在地

●北九州市	場 所: 福岡県北九州市 人 口: 940,978人 (2019年6月現在) 特産品: 合馬たけのこ・小倉牛等
●芦屋町	場 所: 福岡県遠賀郡芦屋町 人 口: 13,797人 (2019年6月現在) 特産品: ヤリイカ・鱈・赤しそ
●水巻町	場 所: 福岡県遠賀郡水巻町 人 口: 28,316人 (2019年6月現在) 特産品: でかこんにこく

図3 各自治体の基本情報

表2 連携事業一覧(H27~H30年度)

年度	連携先	実施内容
H27年度	北九州市	◎放課後児童クラブにおける公開講座
	北九州市	○放課後児童クラブの振興に関する連携事業
H28年度	芦屋町	◎さわらサミット推進プロジェクト
		◎芦屋町課題発見プログラム
		◎地域交流サロンにおける公開講座
H29年度	北九州市	○放課後児童クラブにおける公開講座
		◎放課後児童クラブ指導対象大規模型公開講座
	芦屋町	○さわらサミット推進プロジェクト
		○芦屋町課題発見プログラム
		○地域交流サロンにおける公開講座
		◎キャパベン 稼ごよる模範保育
水巻町	◎災害食レシピ開発	
H30年度	北九州市	○放課後児童クラブにおける公開講座
		○放課後児童クラブ指導対象大規模型公開講座
	芦屋町	○さわらサミット推進プロジェクト
		○芦屋町課題発見プログラム
		○地域交流サロンにおける公開講座
		◎キャパベン 稼ごよる模範保育
水巻町	◎芦屋町祖父母学級における公開講座	
◎災害食レシピ開発		
◎水巻町の地域資源を活用したレシピ開発		

◎は新規事業

#### 【各自治体との連携内容】

##### 1. 北九州市

##### (1) 北九州市放課後児童クラブの振興

放課後児童クラブの児童クラブの指導員を対象に本学教員による公開講座を実施し、児童の育成支援に繋げている。講座の実施実績は以下のとおりである(表3)。



表 3 北九州市との連携事業実績(H27～H30年度)

年度	実施内容	受講者数	合計人数
H27年度	①遊び(レク) ②応急処置 ③ダンス・手遊び ④生活指導	7人 9人 11人 12人	39人
H28年度	①発音指導 ②ダンス・手遊び ③工作・美術 ④応急処置・アレルギー	13人 15人 14人 13人	55人
H29年度	①活動 ②不審者対応 ③大規模(健康観察と応急処置) ④大規模(児童期の関わり方)	23人 8人 94人 496人	621人
H30年度	①大規模(健康観察と応急処置)	92人	92人

公開講座(漢字のはなし～「目」を考えよう!～)を実施し、計41名が受講した。

3. 水巻町  
(1)災害食レシピ開発

水巻町では、住民の防災意識の向上を一つの課題としている。このため、各家庭における災害時に備えた食材の備蓄を促すため、栄養学科がローリングストック法を取り入れた、備蓄食料や少ない調理器具を活用した栄養を補える食事のレシピを開発し、町民を対象に調理講習会を行い、災害食に対する意識の向上を図った(表7)。また、本取り組みが北九州市主催の北九州市防災フォーラム等の参加に繋がり、レシピの配布・展示等の周知活動を実施することができた。



表 7 災害食レシピ開発実績(H29～H30年度)

年度	開発したレシピ	受講者数
H29年度	16品(主食9品、主菜2品、副菜3品、汁物2品)	30人
H30年度	アレルギー対応食8品(卵対応3品、大豆対応2品、小麦対応3品、乳製品対応2品)	19人

(2)水巻町の地域資源を活用したレシピ開発

水巻町の特産品である「でかんにんにく」のブランディングに寄与するため、学校給食の献立に活用できる「でかんにんにく」の調理レシピを16品目開発した。



2. 芦屋町

(1)さわらサミット推進プロジェクト

芦屋町では特産品の一つである鯖を使った料理開発・活用を通し、芦屋町のブランド化に取り組んでいる。この施策として開催されるイベント「さわらサミット」の運営に本学が携わった(表4)。



表 4 さわらサミット実施実績(H28～H30年度)

年度	実施内容	学生数
H28年度	①実行委員会への参加、②ロゴマークの作成、③園児とリズムダンスの実施、④書道パフォーマンスの実施、⑤ドレスコレクションの実施、⑥さわら巻の出店、⑦学術パネルの展示	46人
H29年度	①さわらソーセージドッグの出店、②学術パネルの展示、③課題発見プログラムの実施	15人
H30年度	①さわらソーセージドッグの出店、②学術パネルの展示、③課題発見プログラム学修成果の展示	15人

(2)芦屋町課題発見プログラム

人間生活学科のカリキュラムの中で、芦屋町をフィールドに課題発見プログラム(アクティブラーニングを中心に構成)を展開した(表5)。



表 5 課題発見プログラム実績(H28～H30年度)

年度	実施内容
H28年度	「人が集う町、芦屋をめざして」をテーマに、安全・美化・観光の3分野の学生はに伴う解決案を作成した。役場職員の前で発表し、好評を受けた。
H29年度	「イベントの企画・実施」および「観光のための環境整備」の観点から、さわらサミットの会場に学生の育てた花を飾り、来場者へ手渡した。この結果、町のPRと本学の繋がりを認知してもらう等の成果があった。
H30年度	芦屋町役場の若手職員(地域の住民)と芦屋町の課題について、意見交換し、この結果から、課題解決の 카테고리 を広報・定住・イベントに分類するうえ、「芦屋町の未来を考える」をテーマとした。このカテゴリとテーマを土台に学生はに伴う解決案を役場職員の前で発表し、講評を受けた。

(3)地域交流サロンにおける公開講座

芦屋町の高齢者が集う「地域交流サロン」において、本学の教員による公開講座(硬筆教室)を実施した(表6)。



表 6 公開講座の実績(H28～H30年度)

年度	実施内容	受講者数
H28年度	「えんぴつでなぞりながら読め!徒然草」	12人
H29年度	「えんぴつで百人一首」	16人
H30年度	「えんぴつで蘭村・一茶」	18人

(4)キャラバン隊による模擬保育

キャラバン隊は、九州女子短期大学の実践型教育として、幼稚園・保育所等において、模擬保育・模擬授業を展開する活動である。平成29年度～平成30年度で芦屋町の保育所・幼稚園にて活動を実施し、延べ45名の学生を派遣した。



(5)芦屋町祖父母学級における公開講座

平成30年度から、祖父母学級の高齢者を対象に3ヶ所の公民館にて本学教員による



【引用・参考文献】

- 北九州市HP <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/>
- 芦屋町HP <http://www.town.ashiya.lg.jp/>
- 水巻町HP <https://www.town.mizumaki.lg.jp/>
- 地域教育実践研究センター地域連携事業報告書



図 4 SDGsの17目標

---

---

## 編集後記

本誌は、令和元年度に九州女子大学・九州女子短期大学、および地域教育実践研究センターで実施した地域連携事業を皆様にご報告するため、発行いたしました。

令和元年度は、昨年度と同様に研究活動に重点を置き、様々な取り組みを推進するとともに、新たに国際目標であるSDGsに注目した取り組みを推進してきました。

水巻町との連携事業については、新たな段階へ取り組んだ結果、事業実績が福岡県の賞を受賞する等、よりよい結果へ繋げることができました。SDGsに関する取り組みについては、学生が高等学校のSDGsをテーマとした探求学習に参画し、高校生に対して様々な助言やサポートをすることで、更なる成長を遂げてくれました。また、組織的に連携事業の客観性を担保しつつ、一層の改善に資するため、外部評価委員会を開催し、外部の組織、地域の方々のご意見等を頂戴することで自己点検・評価活動へ繋げました。

本誌を契機として、皆様と新たな連携事業を実施できることを期待するとともに、本学の地域連携活動、および地域貢献活動のさらなる発展を目指してまいります。

地域教育実践研究センター 所長 巴 美樹

---

---

### 令和元年度 地域連携事業報告書

発行：令和2年3月31日

編集：学校法人福原学園 九州女子大学・九州女子短期大学  
地域教育実践研究センター

〒807-8586 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1  
Tel：093-693-3118 Fax：093-693-8203  
E-mail：chiiki-c@fains.jp

